

子育て支援策等に関する調査 2014 報告書(中高生の意識調査)概要

調査目的:次世代を担う中高生について、日頃の活動や友達・両親との関係、将来に対する意識等を把握するため、アンケートにより調査を実施した。

調査対象:中高生1,200名

(中学生・男女 各300名、高校生・男女 各300名)

調査方法:ネット調査会社の登録モニターのお子さんを対象としたウェブアンケート調査 ※2002年調査は登録モニターのお子さんを対象とした郵送調査

抽出方法:北海道・東北、東京都、北関東、南関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の8つの地域ブロック別に、人口比率に合わせて登録モニターを無作為に抽出

調査実施時期:平成26年6月

<分析項目>

1. 日頃の活動（地域活動やクラブ活動、多世代との交流等）
2. 友達づきあいの状況
3. 最近の悩み事
4. 両親について
5. 就労、結婚、子育てについての希望・イメージ
6. 就労観・結婚観・子育て観によるグループ分け
7. 基本属性

<まとめ>

1. 日頃の活動(地域活動やクラブ活動、多世代との交流等)

～パソコンやゲーム、スマートフォン等に時間をかけたい中高生は、全体の2割にのぼる。地域活動やクラブ活動等には、中学生の8割以上、高校生の半数程度が参加。小さな子どもとふれあう機会は前回調査より減少し、学校の授業や行事でのふれあいが最多に～

(p.12-15)

●余裕があったら一番時間をかけたいこと

中学生は「友人と一緒に遊ぶこと」(32.7%)、高校生は「趣味の活動」(27.8%)がトップ。2位はともに「パソコンやゲーム、スマートフォン等をする事」(中高生全体:21.2%)で、前回調査(2002年)の類似選択肢である「パソコンやゲームをする事」(8.9%)に比べて、大幅に増加している。

●地域活動やクラブ活動への参加状況

中学生は、「学校の部活動、クラブ活動」に8割以上が参加している。高校生は「学校の部活動、クラブ活動」への参加は半数弱で、「特に活動しているものはない」も4割にのぼる。

●小さな子どもとふれあう機会

中高生とも、小さな子どもと「ふれあう機会はない」(前回66.1%、今回72.7%)人が、前回調査と比べて増加している。さらに、ふれあう機会がある場合も、「学校の授業や行事」が10.3%で最も多く、前回調査で最も多かった「親戚の子どもと遊んだりする」(前回14.4%、今回8.9%)を抜いてトップとなった。

日頃の活動との関係では、学校外での活動・地域活動等^(※)に参加している方が、学校の活動にのみ参加している、もしくは特に活動しているものはない中高生に比べて、何らかの形で小さな子どもとふれあう機会が多い傾向がみられる。

※学校外での活動・地域活動等:学校外のクラブやサークル、定期的なボランティア活動、仲間とバンドやダンスなどのグループを組んで活動、子ども会や町内会の地域イベント、定期的なアルバイト

2. 友達つきあいの状況

～前回調査と比べて、全体的に友達関係の希薄化が進んでいるが、日頃、学校外の活動に参加したり、自宅外にも居心地の良い場所がある中高生は、良好な友達関係を築いている傾向がみられる。女子高校生は友達と親密な関係を求めている半面、「親しい友達を作ることができない」人が約4割にのぼる～

(p.16-18)

中学生は、「何でも話せる同性の友達がいる」人が74.8%と多く、「親しい友達を作ることができない」人は13.2%にとどまっているが、高校生は、「何でも話せる同性の友達がいる」人が60.7%とやや少なくなり、「親しい友達を作ることができない」人が33.2%と、中学生に比べて、良好な友達関係を築けていない人が多くなっている。特に、女子高校生は、「いつも友達のそばにいたり、連絡をとっていないとさみしい」が29.0%と就学・男女別で最も多く、友達と親密な関係を求めている半面、「親しい友達を作ることができない」人も38.0%と、最も多くなっている。

前回調査と比べると、何でも話せる同性の友達や、親しい異性の友達がいる人の割合は減少し、「親しい友達を作ることができない」(前回9.6%、今回23.2%)人が大幅に増加するなど、全体的に友達関係の希薄化が進んでいる傾向がみられる。

日頃の活動との関係では、学校外での活動に参加している方が、学校の活動にのみ参加していたり、特に活動しているものがない中高生に比べて、「友達と本気でけんかをすることがある」、「何でも話せる同性の友達がいる」人が多く、良好な友達関係を築いている人が多い傾向がみられる。

また、居心地のよい場所が、自宅のみ(「自宅の居間」もしくは「自分の自宅の部屋」のみ)や、「そのような場所はない」中高生に比べて、自宅以外^(※)にもそのような場所があると感じている方が、「何でも話せる同性の友達がいる」、「親しい異性の友達がいる」という人が多い。友達との関係が良好であると、自宅以外にも居心地のよい「居場所」が見つけられていることがうかがえる。

※自宅以外:学校の教室、学校の部活動等の部屋、友達の家、塾・習い事の教室、繁華街・にぎやかなところ、公園、ファーストフード店・ファミリーレストラン・コンビニ等

3. 最近の悩み事

～主な悩みは、勉強のこと、学校生活、将来のこと、身長や体重・外見など。これら悩み事の相談相手は、中学生は主に母親と学校の友達だが、高校生は約半数が誰にも相談していない。悩みの相談は、大半が直接会ってしているが、高校生はSNS(LINE,Facebook等)の利用も約1割にのぼる～

(p.19-21)

●悩み事、悩み事の相談相手

中学生の約半数は、最も悩んでいることとして「勉強のこと」(45.8%)をあげている。そのほか、「学校生活に関すること」、「将来のこと」などが上位にあげられている。悩み事の相談相手は、「母親」が最も多く、次いで「学校の友達」が多い。

高校生は、「勉強のこと」、「将来のこと」、「身長や体重、外見」などが上位にあげられている。また、女子高校生は、他と比べて、「身長や体重、外見」をあげる人が多く、「悩んでいることはない」の割合は、就学・男女別で最も少ない。悩み事の相談相手は、最も悩んでいること、2番目、3番目に悩んでいることのいずれについても、「相談している人はいない」が半数近くとなっている。相談している人がいる場合は、「学校の友達」、次いで「母親」が多くなっている。

前回調査では、悩み事の相談相手は、「学校の友達」が最も多く、次いで「母親」の順であったが、今回調査では、特に中学生において、「母親」が多くあげられている点が特徴といえる。また、「相談している人はいない」(最も悩んでいることについて、前回22.7%、今回29.5%)も、増加傾向にある。

●悩み事を相談する方法

悩み事を相談する方法(直接相談、メール、SNS等)は、「直接会う」が約9割と大半を占めている。ただし、高校生は、携帯電話やパソコン等の普及を背景として、「LINEやFacebook等のSNS」を利用する人も約1割を占めている。

4. 両親について

～父親や母親とほとんど会話をしない中高生は増加傾向。両親との会話の有無や、夫婦の仲の良さ、家庭の状況(家族でよく出かけた、家庭は和やかなど)が、両親に対する満足度や、両親への評価(自分を理解していると思うかなど)に大きく影響するとともに、両親との信頼関係が良好な友達関係を築く基盤に～

(p.22-25)

●両親の就業状況

現在は「共働き」が約半数、次いで「専業主婦(夫)」のいる家庭が約3割である。前回調査と比べると、小学校就学前において共働きの世帯が増加している。

●両親との会話

父親との話題は、「学校や塾、習い事での出来事」、「勉強のこと」、「テレビ番組の話題」など、母親との話題は、「学校や塾、習い事での出来事」、「友達のこと」、「勉強のこと」などが上位にあげられている。ただし、高校生では、父親と「ほとんど会話をしない」が約3割にのぼるなど、両親と会話をしない中高生(前回・父親14.8%,母親3.4%、今回・父親21.7%,母親9.4%)が増加傾向にある。

●両親に対する評価

父親・母親が自分を理解していると思う割合は、中学生では8～9割、高校生では6～7割である。また、父親・母親に対する満足度は、中学生は8割以上、高校生は7割前後だが、就学・男女別にみると、女子高校生は父親や母親に対する満足度が最も低くなっている。前回調査と比べると、父親・母親が仕事や家事にやりがいを感じているか、子育てに熱心と思うかについて、「そう思う」と答えた割合は減少した。

両親への評価や満足度は、両親の就業状況(共働き世帯、専業主婦世帯等)ではあまり差はみられないが、両親との会話の有無や、夫婦の仲の良さ、小学校時に家族でよく出かけたか、家庭はなごやかで楽しかったかどうかなどでは、大きな差がみられた。さらに、両親との関係が良好であったり、家庭が居心地が良いと思える中高生は、友達関係も良好な傾向がみられ、両親との信頼関係が友達関係を築いていく基盤となっていることがうかがえる。

5. 就労、結婚、子育てについての希望・イメージ

～将来の意識をみると、就労、結婚、子育てについて具体的な希望やイメージを持っていない中高生は増加傾向にある。また、高校生は、中学生に比べて、結婚や子育てに消極的な人も多い。これら将来に対して前向きな希望・イメージがもてているかは、良好な友達関係を築けているかどうかとも深く関係している～

(p.26-32)

将来、「自分の能力を發揮できる、やりがいのある仕事につきたい」という前向きな希望や、「ぜひ結婚したい」、もしくは「できるだけ結婚したい」と考える層は、それぞれ6～7割程度である。子育てについては、「当然、子どもを持って育てたいと思う」、「自分の子どもはかわいいと思う」など、ポジティブなイメージは、それぞれ約4割となっている。

就学・男女別にみると、男子中学生は、「わからない」が最も多く、将来のことに対して、具体的な希望やイメージをまだ持っていない傾向がみられる。一方、高校生は、中学生に比べて、より現実的な考え方をするようになるためか、結婚や子育てに対して消極的な考えや、ネガティブなイメージが多い。「結婚はしたくない」(12.7%)、「子どもは欲しいと思わない」(16.5%)など、結婚・子育てに消極的な考えの人は、結婚について「時間やお金を自由に使えなくなる」、「他人と家庭を築くのは面倒そう」、「相手の家族等との付き合いが面倒そう」、子育てについて「自由な時間がなくなる」、「子育ては、お金等かかり、負担が大きい」、「子どもはわずらわしい」など、ネガティブなイメージを有する人が多い。結婚と子育ての希望は相互に深く関係しており、結婚に対して前向きな人の方が、子どもを欲しい人が多いという傾向がみられる。

また、友達関係や親子関係が良好な方が、就労や結婚、子育てに対して前向きな傾向がみられ、安定した人間関係が、将来に対する希望につながっている。さらに、小さな子どもとふれあう機会がない人は、結婚や子育てについて具体的なイメージを持っていない人が多い傾向にあり、子どもとのふれあいは、結婚観や子育て観の形成に役立っていることがうかがえる。

6. 就労観・結婚観・子育て観によるグループ分け

～仕事に対して現実的な意識を持つグループが2つ。就労観・結婚観・子育て観、全てに後ろ抜きのグループは中高生男子の中の少数派から、女性も含めた一定割合を占める層に拡大～

(p.33-38)

これまでの分析によって、就労観、結婚観、子育て観には密接な関わりがみられたことから、クラスター分析によって、就労観・結婚観・子育て観によるグループ分けを行ったところ、「クラスター1:全て前向き(特に仕事にやりがい)」「クラスター2:特に結婚に前向き。子育てにも前向き。仕事はお金を稼ぐこと」「クラスター3:仕事はお金を稼ぐこと。他は後ろ向き」「クラスター4:全て後ろ向き」「クラスター5:結婚に前向きだが、仕事に後ろ向き」の5つのグループに分けることができた。

前回調査でも同様の設問、方法でグループ分けを行ったが、今回調査のグループ分けの特徴として、就労観について「お金を稼ぐことができる」で特徴のあるグループが2グループあった。この10年間に経済状況が悪化する中、中高生の就労観も、やりがいなどより、まずはお金を稼ぐことといった現実的な意識が強くなっていることがうかがえる。また、全て後ろ向きのグループは、前回調査では男子中高生の割合が高くなっていたが、今回調査では、属性の特徴は認められなかった。また、そのグループが全体に占める割合は7.5%から17.2%へと高くなっており、男子中高生の中にみられる少数の特有グループから、女性も含めた一定割合を占める層に拡大していることがうかがえた。

各グループの特徴は次頁以降のとおりである。

●クラスター1:全て前向き(特に仕事にやりがい) 20.0%

女子高校生の割合が高く、日頃の活動は友達つきあいが中心である。悩みを相談できる仲の良い友達もいる人が多い。就労・結婚・子育てに対しては、いずれも前向きな意識を持っている人が多い。両親に対しては、子育てに熱心、自分のことを理解してくれているなど、肯定的な意識を持っている人が多く、将来のことを話すなどコミュニケーションも取れており、家庭の雰囲気もよい状況がうかがえた。また、父親、母親とも、仕事や家事にやりがいを持っていると感じている割合も高い。

●クラスター2:特に結婚に前向き。子育てにも前向き。仕事はお金を稼ぐこと 26.2%

属性に特徴は見られない。日頃の活動は、友達つきあいが充実している様子うかがえた。就労・結婚・子育てに対しては、仕事に対して、お金を稼ぐために収入の高い仕事に就きたいと考える現実的なイメージを持っている人が多い。特に結婚願望が強く、子育てに対しても前向きな意識を持っている人が多い。生活のためにきちんと稼ぎ、結婚し、子どもを持つということを、より現実的に考えている堅実的なグループであることがうかがえた。

●クラスター3:仕事はお金を稼ぐこと。他は後ろ向き 22.9%

男子中学生の割合が高い。日頃の活動は、友達との関わりは薄く、パソコンやゲームなどに時間を割いている様子うかがえた。仕事に対してはお金を稼ぐために収入の高い仕事に就きたいと考える現実的なイメージを持っている人が多い。また、結婚や子育てについては、時間やお金を自由に使えなくなる、面倒そうといった自分中心の意識がまだ強い傾向にある。一方で、わからないと回答した割合も高く、仕事については現実的なイメージのみ、結婚・子育てについては漠然としたイメージしか持つことのできていない状況がうかがえた。小さな子どもとふれあう機会がない人が8割を超えており、こうしたことも子どもを持つことのイメージが持てない要因となっているとも考えられる。

●クラスター4: 全て後ろ向き 17.2%

属性に特徴は見られない。日頃の活動をみると、特に活動しているものはない、時間をかけたいものもないと回答した割合が高く、友達との関わりも希薄な人が多い。悩んでいることがないと回答した割合が高く、全般的に活動意欲が低い様子が見えられた。就労に対しては、大変そう、自由な時間が少なくなる、結婚・子育てに対しては、面倒そう、負担がかかるなどの自分中心の意識が強い。結婚や子育ては、わからないと回答した割合も高く、小さな子どもとふれあう機会がない人も多い。このグループは、両親は自分のことを理解してくれていないと感じている割合が高く、家庭の雰囲気が悪く、特に両親とのコミュニケーションが薄い状況が見えられた。

●クラスター5: 結婚に前向きだが、仕事に後ろ向き 23.8%

属性に特徴は見られない。将来について悩んでいる人が多く、仕事に対しては、大変そう、自由な時間がなくなるといったネガティブなイメージを持っている人が多い。一方、結婚に対しては、ぜひ結婚したいと回答した割合が高く、ポジティブなイメージを持っている人が多い。子育てについても、ポジティブなイメージを持っている人が多く、町内会や子ども会、学校の授業や行事で小さな子どもとふれあう機会のある人が多くなっていた。結婚願望が強く、子どもを持つことについてもポジティブなイメージを持つことができている反面、仕事に対する意識は低く、それが将来の悩みにもつながっていることが見えられた。

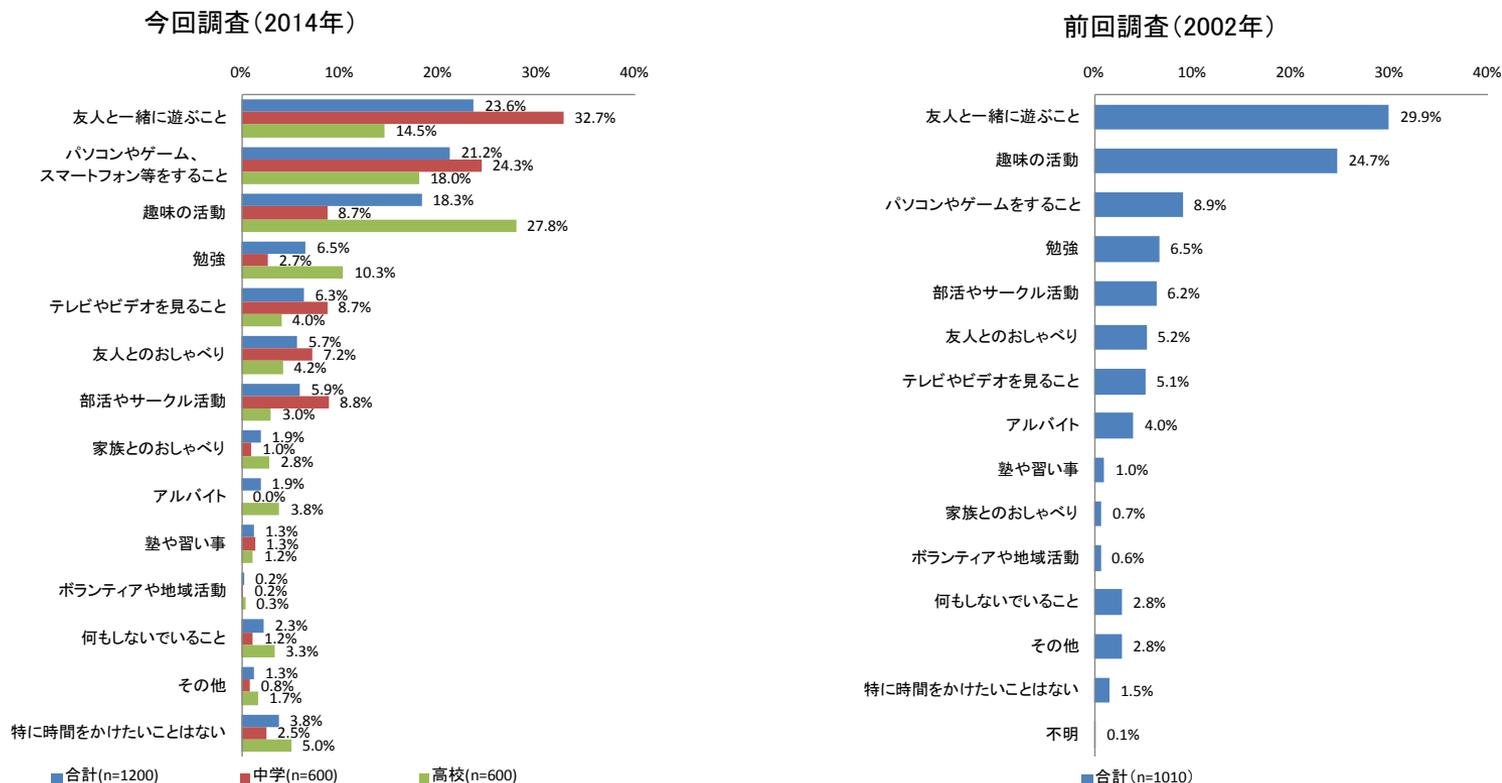
<参照データ>

1.日頃の活動(地域活動やクラブ活動、多世代との交流)

(1)余裕があったら時間をかけたいこと

中学生の1位は「友人と一緒に遊ぶこと」で32.7%、高校生の1位は「趣味の活動」で27.8%。2位はともに「パソコンやゲーム、スマートフォン等をする事」で、中高生全体では21.2%(中学生24.3%、高校生18.0%)。前回調査の類似選択肢である「パソコンやゲームをする事」は中高生全体で8.9%であったが、今回調査では大きく増加した。

図表1 余裕があったら、一番時間をかけたいこと:単数回答(Q6)

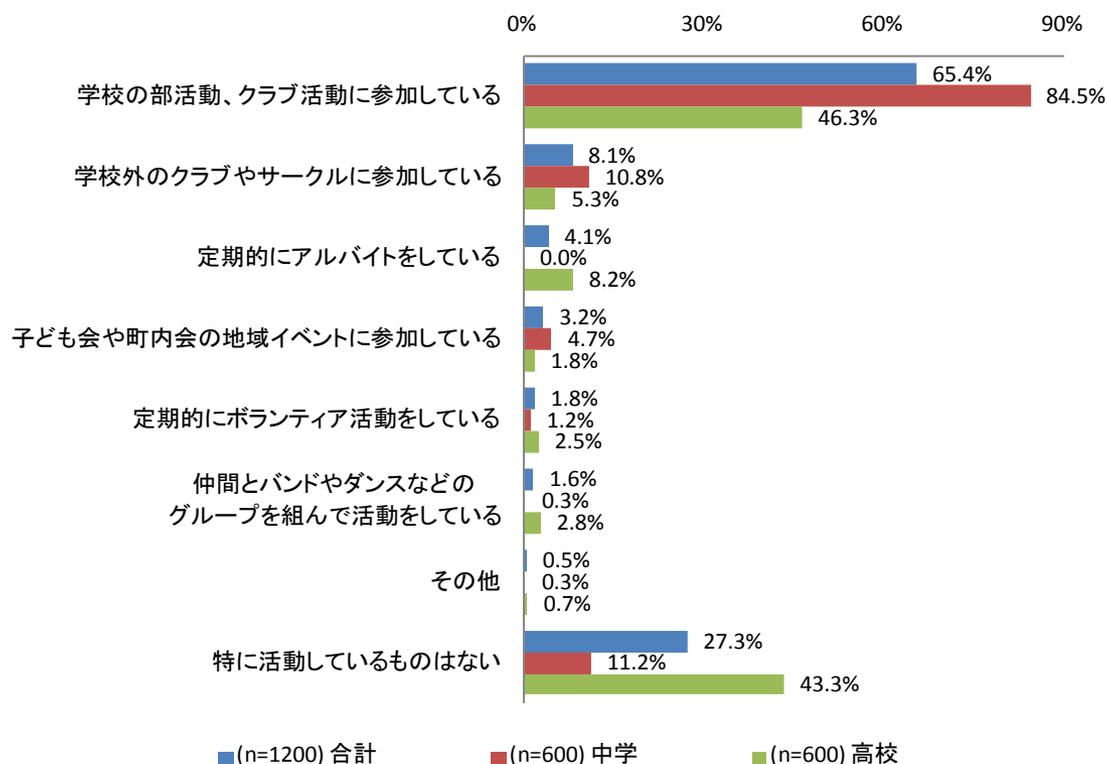


(2)地域活動やクラブ活動への参加状況

中学生は、「学校の部活動、クラブ活動に参加している」が84.5%で最も多く、次いで「学校外のクラブやサークルに参加している」が10.8%で続いている。

高校生は、「学校の部活動、クラブ活動に参加している」が46.3%で最も多く、次いで「定期的にアルバイトをしている」が8.2%で続いている。ただし、「特に活動しているものはない」人も43.3%にのぼり、中学生に比べて、地域活動やクラブ活動に参加している割合は少ない。

図表2 地域活動やクラブ活動への参加状況：複数回答(Q8)

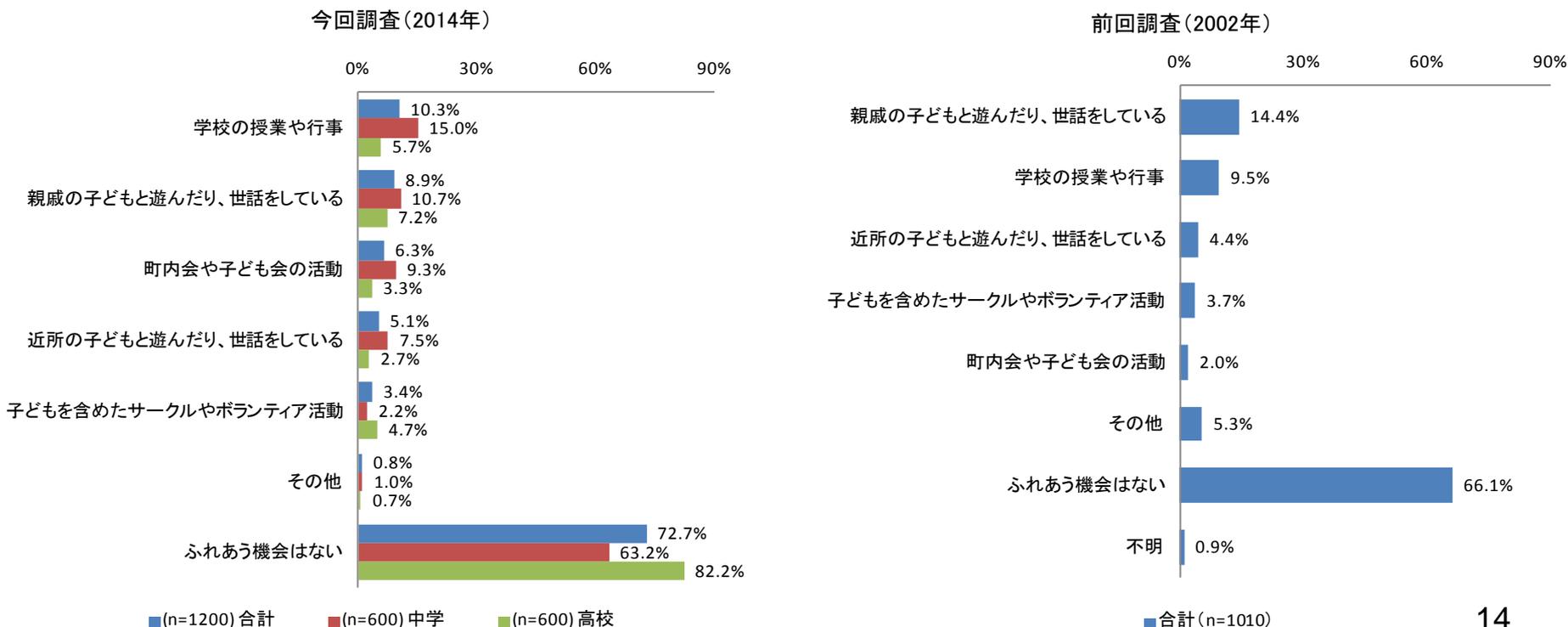


(3) 小さな子ども(小学校に入る前の乳幼児)とふれあう機会

小さな子どもと「ふれあう機会はない」という中高生が72.7%で最も多く、前回調査(66.1%)から増加している。

一方、ふれあう機会をみると、中高生全体で「学校の授業や行事」が10.3%で最も多く、前回調査で最も多かった「親戚の子どもと遊んだり、世話をしている」(前回14.4%、今回8.9%)を上回った。少子化の進展を背景に、親戚の子どもと遊ぶ機会が減少し、学校の授業や行事が、小さな子どもとふれあう機会の一つとして、重要性が高まっていることがうかがえる。

図表3 小さな子どもとふれあう機会：複数回答(Q9)



日頃の地域活動やクラブ活動への参加状況別に、小さな子どもとふれあう機会をみると、「学校外の活動、地域活動等に参加」、「学校の活動のみ参加」、「特に活動しているものはない」の順に、ふれあう機会がある人が多くなっている。「特に活動しているものはない」人では、「ふれあう機会はない」が約9割にのぼっており、学校内外での活動や、地域活動等への参加が、何らかの形で小さな子どもとふれあう機会につながっていることがうかがえる。

図表4 地域活動やクラブ活動への参加状況別 小さな子どもとふれあう機会：複数回答(Q9)

日頃の活動※	合計	Q9 小さな子どもとふれあう機会						
		町内会や子ども会の活動でふれあう	子どもを含めたサークルや、ボランティア活動	学校の授業や行事でふれあう	親戚の子どもと遊んだり、世話をしている	近所の子どもと遊んだり、世話をしている	その他	ふれあう機会はない
全体	1200	76	41	124	107	61	10	872
	100.0	6.3	3.4	10.3	8.9	5.1	0.8	72.7
学校の活動のみ参加	675	48	14	81	57	35	6	471
	100.0	7.1	2.1	12.0	8.4	5.2	0.9	69.8
学校外の活動、地域活動等に参加	198	27	25	35	31	23	3	104
	100.0	13.6	12.6	17.7	15.7	11.6	1.5	52.5
特に活動しているものはない	327	1	2	8	19	3	1	297
	100.0	0.3	0.6	2.4	5.8	0.9	0.3	90.8

※地域活動やクラブ活動への参加状況(Q8)の回答結果をもとに、以下のように再分類している。

「学校の活動のみ参加」:「学校の部活動、クラブ活動に参加している」のみ選択した人。

「学校外の活動、地域活動等に参加」:「特に活動しているものはない」に該当せず、「学校の部活動、クラブ活動に参加している」以外の選択肢を1つでも選択した人。

「特に活動しているものはない」:「特に活動しているものはない」のみを選択した人。

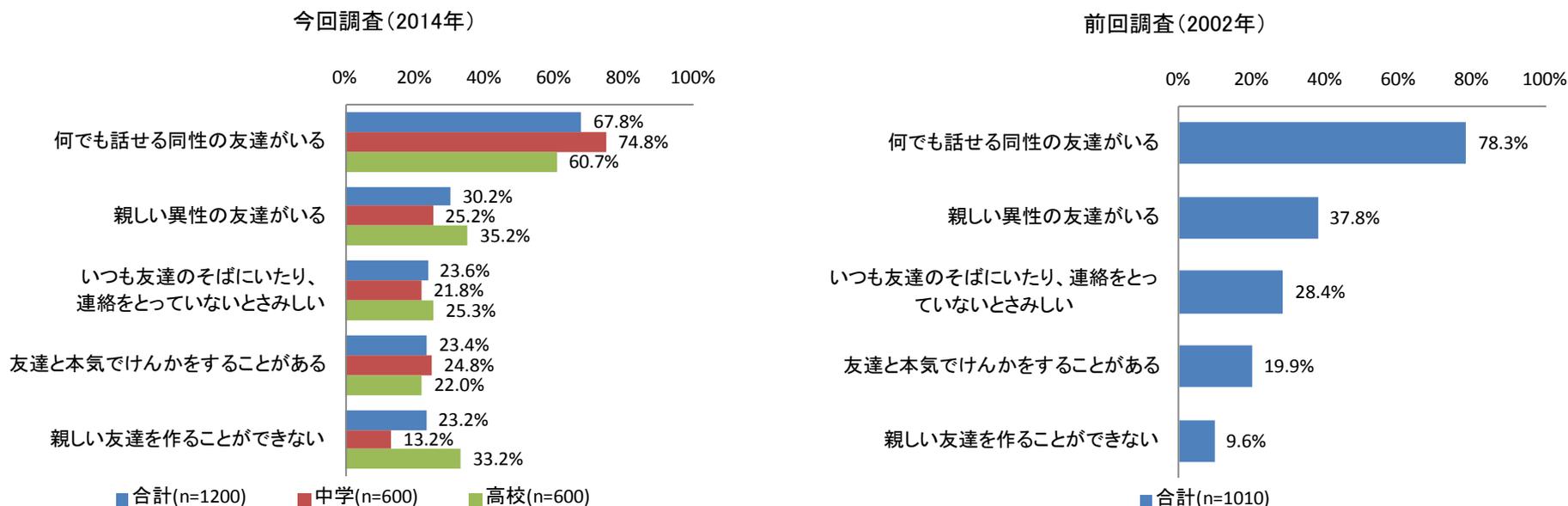
2.友達つきあいの状況

(1)友達つきあいの状況

中高生全体でみると、「何でも話せる同性の友達がいる」人は7割弱、「友達と本気でけんかをすることがある」人は2割強、「親しい異性の友達がいる」人は約3割となっている。

一方、「親しい友達を作ることができない」人は、2割強だが、高校生の方が中学生よりもその割合は多く、高校生では約3分の1にのぼっている。前回調査と比べて、「何でも話せる同性の友達がいる」(前回78.3%、今回67.8%)人は減少し、「親しい友達を作ることができない」(前回9.6%、今回23.2%)人が増加するなど、友達関係の希薄化がうかがえる。

図表5 最近の友達とのつきあい:単数回答(Q12)



※グラフの数値は、各項目に「はい」と回答した人の割合

就学・男女別に、友達とのつきあいの状況を見ると、男子高校生は、他と比較して、「友達と本気でけんかをすることがある」、「何でも話せる同性の友達がいる」に「いいえ」と回答した人の割合（それぞれ81.7%、42.3%）が多い。

また、女子高校生は、他と比較して、「いつも友達のそばにいたり、連絡をとっていないとさみしい」（29.0%）人が最も多い一方、「親しい友達を作ることができない」（38.0%）という人も最も多く、友達と親密な関係を求める傾向が強い半面、良好な友達関係を築くことができていない傾向がうかがえる。

図表6 就学・男女別 最近の友達とのつきあい：単数回答(Q12)

就学・男女別	合計	Q12.1 友達と本気でけんかをする ことがある		Q12.2 何でも話せる同性の 友達がいる		Q12.3 親しい異性の友 達がいる		Q12.4 いつも友達のそ ばにいたり、連絡をとっ ていないとさみしい		Q12.5 親しい友達をつ くることができない	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
全体	1200	281	919	813	387	362	838	283	917	278	922
	100.0	23.4	76.6	67.8	32.3	30.2	69.8	23.6	76.4	23.2	76.8
中学生・男性	300	79	221	222	78	75	225	54	246	37	263
	100.0	26.3	73.7	74.0	26.0	25.0	75.0	18.0	82.0	12.3	87.7
中学生・女性	300	70	230	227	73	76	224	77	223	42	258
	100.0	23.3	76.7	75.7	24.3	25.3	74.7	25.7	74.3	14.0	86.0
高校生・男性	300	55	245	173	127	99	201	65	235	85	215
	100.0	18.3	81.7	57.7	42.3	33.0	67.0	21.7	78.3	28.3	71.7
高校生・女性	300	77	223	191	109	112	188	87	213	114	186
	100.0	25.7	74.3	63.7	36.3	37.3	62.7	29.0	71.0	38.0	62.0

地域活動やクラブ活動への参加状況別及び居心地の良い場所別に友達とのつきあいの状況をみると、日頃、学校外の活動に参加したり、自宅外にも居心地の良い場所がある中高生の方が、良好な友達関係を築けている傾向がみられる。

図表7 地域活動やクラブ活動への参加状況別 最近の友達とのつきあい:単数回答(Q12)

日頃の活動*	合計	Q12.1 友達と本気でけんかをすることがある		Q12.2 何でも話せる同性の友達がいる		Q12.3 親しい異性の友達がいる		Q12.4 いつも友達のおそばにいたり、連絡をとっていないときみしい		Q12.5 親しい友達を作ることができない	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
全体	1200 100.0	281 23.4	919 76.6	813 67.8	387 32.3	362 30.2	838 69.8	283 23.6	917 76.4	278 23.2	922 76.8
学校の活動のみ参加	675 100.0	158 23.4	517 76.6	495 73.3	180 26.7	185 27.4	490 72.6	160 23.7	515 76.3	126 18.7	549 81.3
学校外の活動、地域活動等に参加	198 100.0	63 31.8	135 68.2	146 73.7	52 26.3	86 43.4	112 56.6	62 31.3	136 68.7	43 21.7	155 78.3
特に活動しているものはない	327 100.0	60 18.3	267 81.7	172 52.6	155 47.4	91 27.8	236 72.2	61 18.7	266 81.3	109 33.3	218 66.7

※地域活動やクラブ活動への参加状況(Q8)の回答結果をもとに、以下のように再分類している。

「学校の活動のみ参加」:「学校の部活動、クラブ活動に参加している」のみを選択した人。

「学校外の活動、地域活動等に参加」:「特に活動しているものはない」に非該当で、「学校の部活動、クラブ活動に参加している」以外の選択肢を1つでも選択した人。

「特に活動しているものはない」:「特に活動しているものはない」のみを選択した人。

図表8 居心地の良い場所別 最近の友達とのつきあい:単数回答(Q12)

居心地の良い場所*	合計	Q12.1 友達と本気でけんかをすることがある		Q12.2 何でも話せる同性の友達がいる		Q12.3 親しい異性の友達がいる		Q12.4 いつも友達のおそばにいたり、連絡をとっていないときみしい		Q12.5 親しい友達を作ることができない	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
全体	1200 100.0	281 23.4	919 76.6	813 67.8	387 32.3	362 30.2	838 69.8	283 23.6	917 76.4	278 23.2	922 76.8
自宅のみ	772 100.0	169 21.9	603 78.1	519 67.2	253 32.8	206 26.7	566 73.3	160 20.7	612 79.3	186 24.1	586 75.9
自宅以外にもあり	355 100.0	100 28.2	255 71.8	270 76.1	85 23.9	137 38.6	218 61.4	110 31.0	245 69.0	73 20.6	282 79.4
そのような場所はない	73 100.0	12 16.4	61 83.6	24 32.9	49 67.1	19 26.0	54 74.0	13 17.8	60 82.2	19 26.0	54 74.0

※居心地の良い場所(Q11)の回答結果をもとに、以下のように再分類している。

「自宅のみ」:「自宅の居間」もしくは「自宅の自分の部屋」のみを選択した人。

「自宅以外にもあり」:「そのような場所はない」に非該当で、「自宅の居間」、「自宅の自分の部屋」以外の選択肢を、1つでも選択した人。

「そのような場所はない」:「そのような場所はない」のみを選択した人。

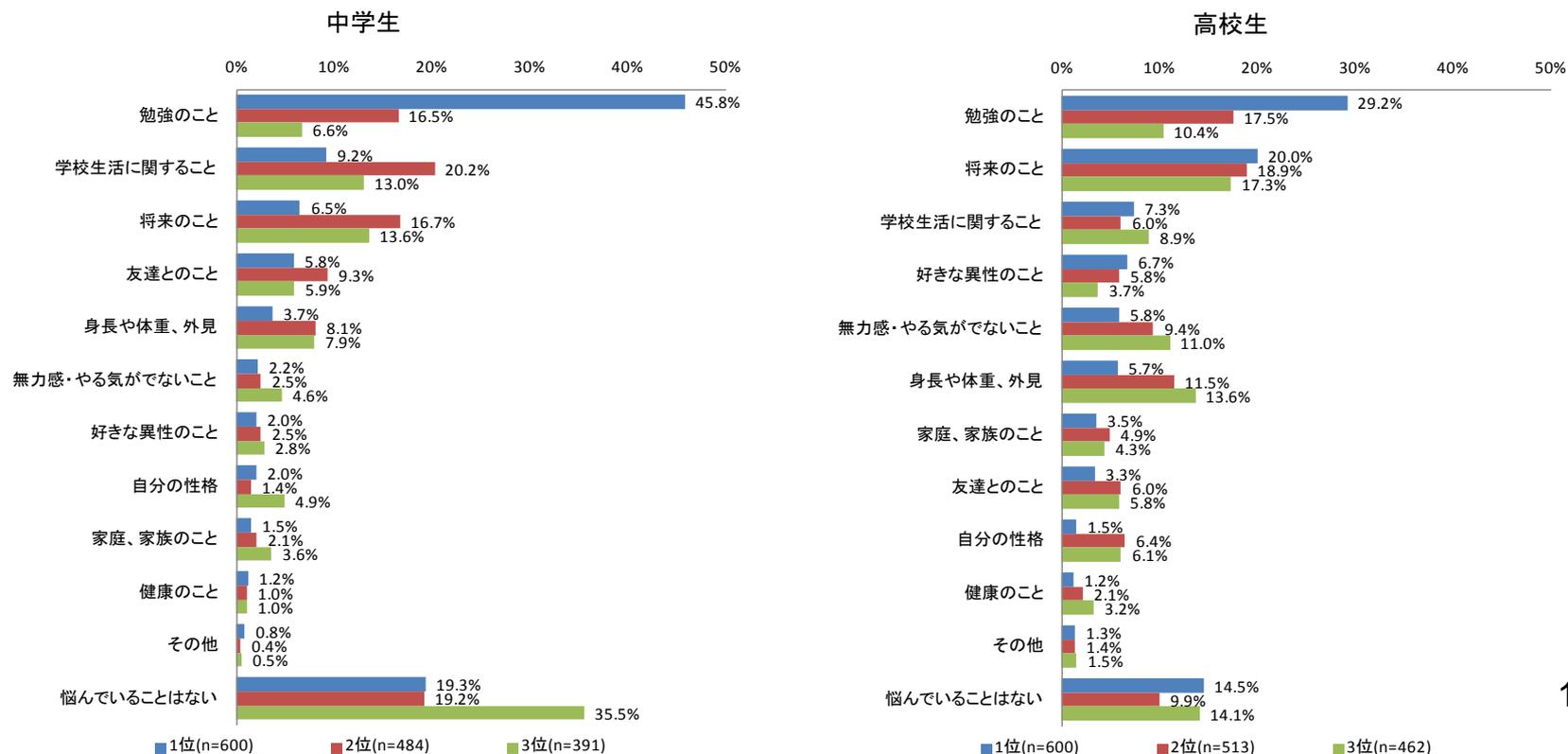
3.最近の悩み事

(1)最近の悩み事

中学生が最も悩んでいる事は、「勉強のこと」(45.8%)が半数弱を占め、次いで「学校生活に関すること」(9.2%)が続いている。また、「悩んでいることはない」は19.3%である。

高校生が最も悩んでいる事は、「勉強のこと」(29.2%)、「将来のこと」(20.0%)などが上位である。「悩んでいることはない」は14.5%である。

図表9 最近の悩み事(1位~3位):単数回答(Q10)

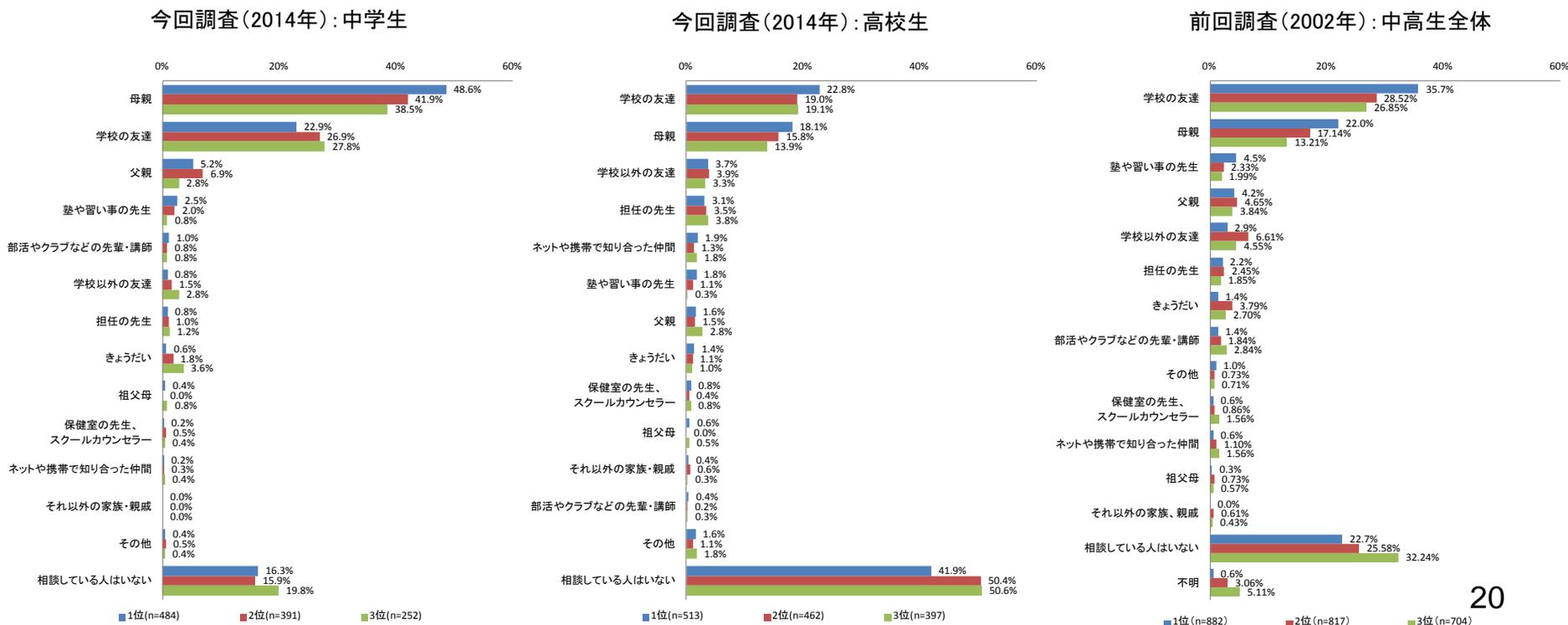


(2) 悩み事の相談相手

最も悩んでいる事を相談する相手を見ると、中学生は「母親」(48.6%)や、「学校の友達」(22.9%)が多い。高校生は、「相談している人はいない」(41.9%)が最も多く、4割を上回っている。次いで「学校の友達」(22.8%)、「母親」(18.1%)となっている。

前回調査では、「学校の友達」(中高生全体:35.7%)が最も多く、次いで「母親」(同22.0%)の順であったが、今回は「母親」が「学校の友達」より多くなっている。また、「相談している人はいない」(前回22.7%、今回29.5%)も増え、誰にも悩みを相談しない中高生が増えている傾向がうかがえる。

図表10 悩み事(1位~3位)の相談相手:単数回答(Q10)

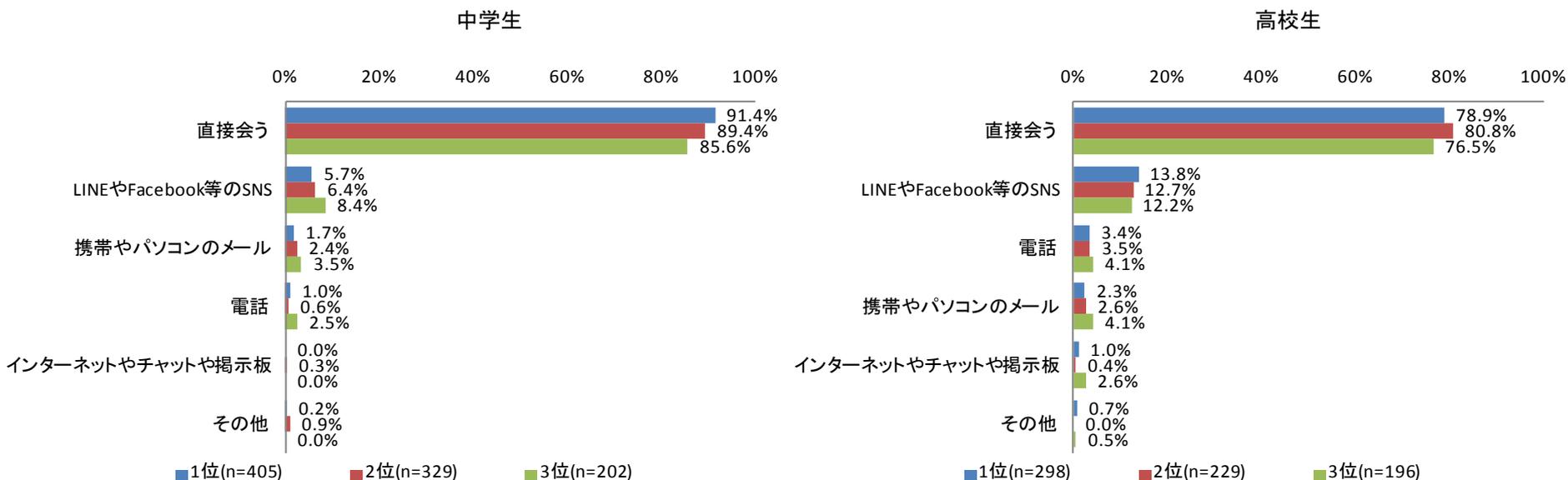


(3) 悩み事の相談方法

最も悩んでいる事について相談する方法は、中学生は「直接会う」(91.4%)が最も多い。

高校生は、「直接会う」(78.9%)が最も多いものの、8割弱にとどまり、「LINEやFacebook等のSNS」(13.8%)を利用する人も1割強を占めている。

図表11 悩み事(1位~3位)の相談方法:単数回答(Q10)



4.両親について

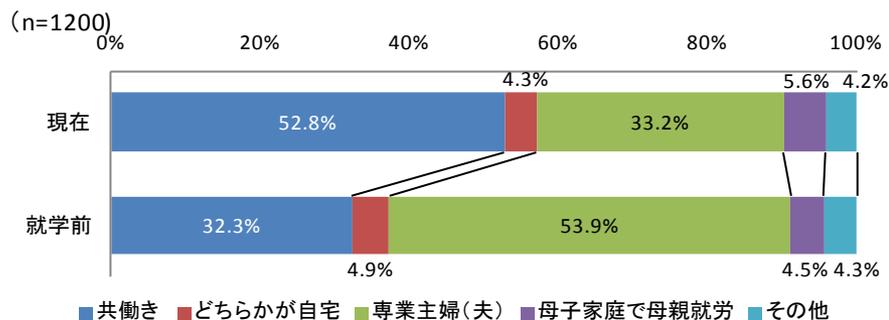
(1)両親の就業状況

現在の両親の就業状況は、「共働き」が52.8%で最も多く、次いで「専業主婦(夫)」が33.2%である。小学校就学前の両親の就業状況は、「共働き」が32.3%で最も多く、次いで「専業主婦(夫)」が53.9%である。

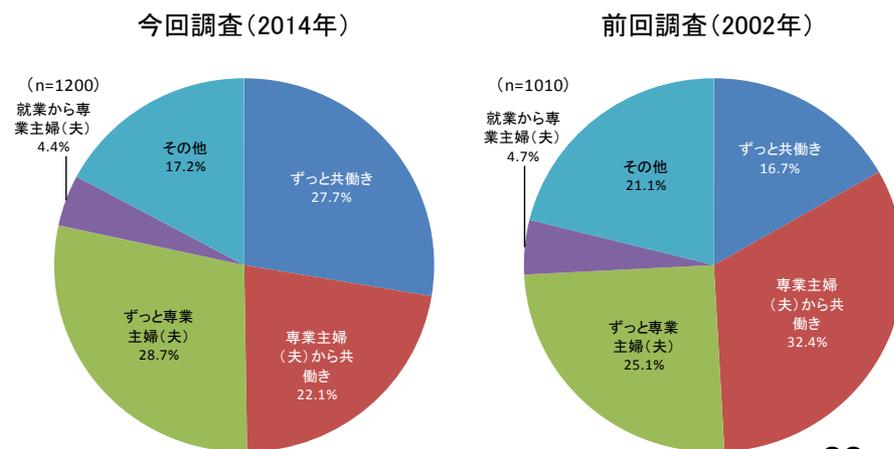
両親の就業状況の変化をみると、「ずっと共働き」と「ずっと専業主婦(夫)」がいずれも3割弱、次いで「専業主婦(夫)から共働き」が22.1%となっている。

前回調査と比べて、小学校就学前における共働き世帯の割合が増加しており、両親の就業状況の変化をみても、「ずっと共働き」(前回16.7%、今回27.7%)の世帯が多くなっている。

図表12 現在及び小学校就学前の両親の就業状況
:単数回答(Q21)



図表13 両親の就業状況の変化:単数回答
(Q21)

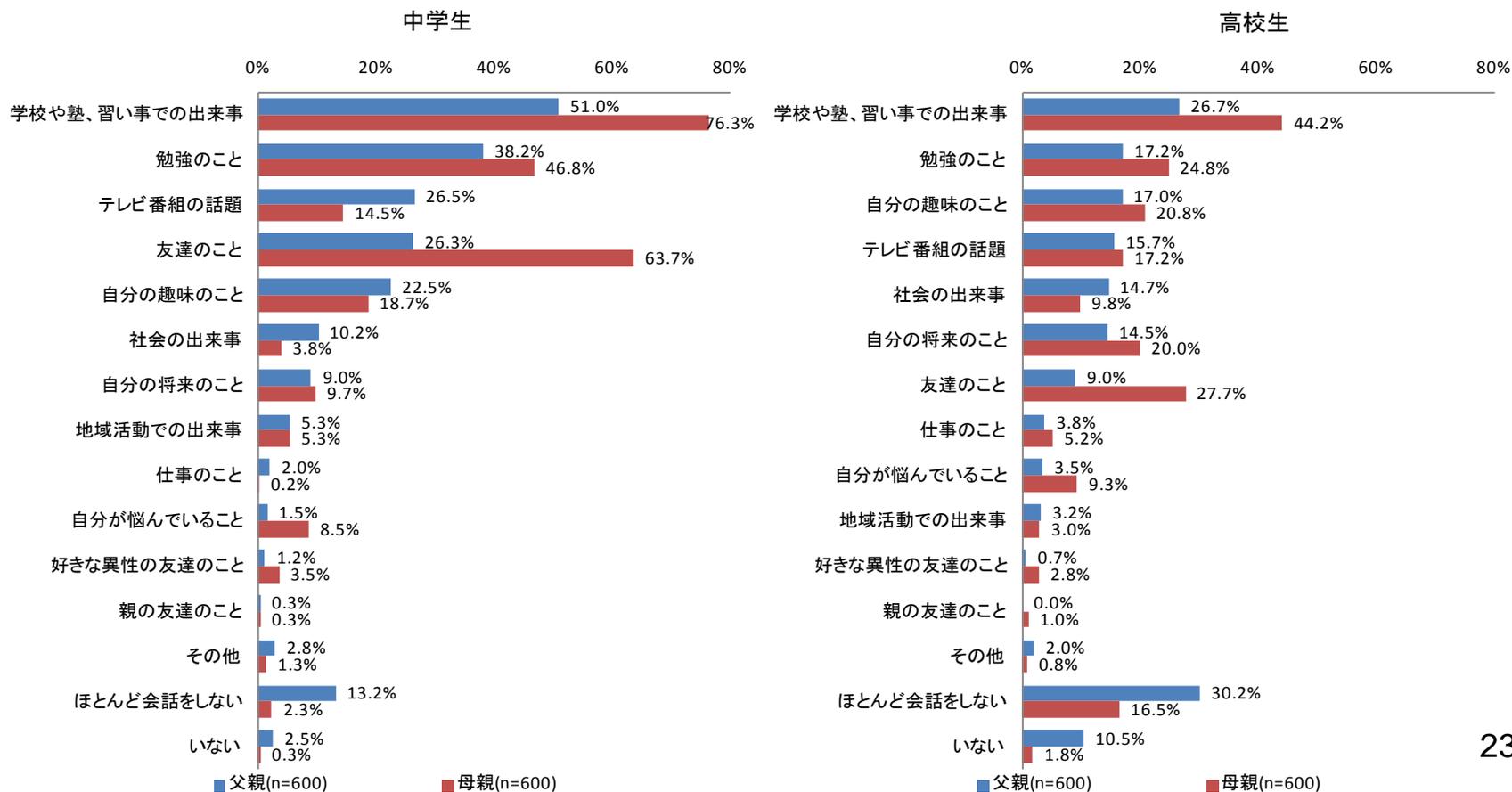


※現在と、小学校就学前の両親の就業状況の回答をもとに作成。
「その他」には、両親とも非就業の世帯や、母子家庭などが含まれる。

(2)両親との会話

両親との会話の内容をみると、中高生ともに、父親とは「学校や塾、習い事での出来事」、「勉強のこと」、母親とは「学校や塾、習い事での出来事」、「友達のこと」を話している人が多い。一方、「ほとんど会話をしない」人は、中学生に比べて高校生で多い。また、中高生全体でみると、前回調査から増加傾向にある(前回・父親14.8%、母親3.5%、今回・父親21.7%、母親9.4%)。

図表14 両親との会話の内容:複数回答(Q20)



(3)両親に対する評価・満足度

父親・母親と、学校や塾、習い事での出来事や、友達とのことなどを話している中高生は、両親が自分を理解しているか、子育てに熱心と思うか、両親は仲が良いかについて、「そう思う」もしくは「まあそう思う」と回答した人が多い。一方、両親と「ほとんど会話をしない」場合は、「そう思わない」、「あまりそう思わない」という回答が多く、両親との会話の状況と、両親に対する評価は大きく関係していることがうかがえる。

図表15 両親との会話の内容別 両親に対する評価：単数回答(Q23)

両親との会話の内容	合計	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
<父親との会話の内容>					
Q23_1_1 自分を理解している:父					
全体	1122 100.0	208 18.5	598 53.3	222 19.8	94 8.4
学校や塾、習い事での出来事	466 100.0	113 24.2	296 63.5	48 10.3	9 1.9
ほとんど会話をしない	260 100.0	23 8.8	83 31.9	86 33.1	68 26.2
<母親との会話の内容>					
Q23_2_1 自分を理解している:母					
全体	1187 100.0	312 26.3	630 53.1	183 15.4	62 5.2
友達とのこと	548 100.0	186 33.9	307 56.0	51 9.3	4 0.7
ほとんど会話をしない	113 100.0	7 6.2	37 32.7	30 26.5	39 34.5
<父親との会話の内容>					
Q23_1_4 子育てに熱心:父					
全体	1122 100.0	110 9.8	476 42.4	387 34.5	149 13.3
学校や塾、習い事での出来事	466 100.0	62 13.3	250 53.6	130 27.9	24 5.2
ほとんど会話をしない	260 100.0	12 4.6	49 18.8	113 43.5	86 33.1
<母親との会話の内容>					
Q23_2_4 子育てに熱心:母					
全体	1187 100.0	246 20.7	615 51.8	258 21.7	68 5.7
友達とのこと	548 100.0	148 27.0	302 55.1	87 15.9	11 2.0
ほとんど会話をしない	113 100.0	4 3.5	32 28.3	40 35.4	37 32.7

両親との会話の内容	合計	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
<父親との会話の内容>					
Q23_3 両親は仲が良い					
全体	1109 100.0	337 30.4	507 45.7	178 16.1	87 7.8
学校や塾、習い事での出来事	459 100.0	168 36.6	216 47.1	53 11.5	22 4.8
ほとんど会話をしない	257 100.0	41 16.0	94 36.6	70 27.2	52 20.2
<母親との会話の内容>					
Q23_3 両親は仲が良い					
全体	1109 100.0	337 30.4	507 45.7	178 16.1	87 7.8
友達とのこと	530 100.0	177 33.4	246 46.4	76 14.3	31 5.8
ほとんど会話をしない	102 100.0	16 15.7	31 30.4	26 25.5	29 28.4

小学校の頃の家庭の様子別に、父親・母親に対する満足度をみると、「家族でよく出かけた」、「家庭はなごやかで楽しかった」に「いいえ」と回答した中高生は、父親・母親に対して「不満である」もしくは「やや不満である」と回答する人が多く、家庭の状況は、両親に対する満足度に大きく影響しているといえる。

また、両親が自分を理解していると思う中高生は、そう思わない場合に比べて、友達関係が良好な傾向がみられる。両親との信頼関係が、友達関係を築く基盤になっていることがうかがえる。

図表16 小学校の頃の家庭の様子別
両親に対する満足度：単数回答(Q25)

小学校の頃の家庭の様子		合計	Q25.1 父親に対する満足度			
			大変満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である
		1122	217	620	186	99
		100.0	19.3	55.3	16.6	8.8
家族でよく出かけた	はい	878	192	501	130	55
		100.0	21.9	57.1	14.8	6.3
家族でよく出かけた	いいえ	244	25	119	56	44
		100.0	10.2	48.8	23.0	18.0
家庭はなごやかで楽しかった	はい	911	209	541	124	37
		100.0	22.9	59.4	13.6	4.1
家庭はなごやかで楽しかった	いいえ	211	8	79	62	62
		100.0	3.8	37.4	29.4	29.4

小学校の頃の家庭の様子		合計	Q25.2 母親に対する満足度			
			大変満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である
		1187	299	692	143	53
		100.0	25.2	58.3	12.0	4.5
家族でよく出かけた	はい	921	251	554	90	26
		100.0	27.3	60.2	9.8	2.8
家族でよく出かけた	いいえ	266	48	138	53	27
		100.0	18.0	51.9	19.9	10.2
家庭はなごやかで楽しかった	はい	968	283	583	82	20
		100.0	29.2	60.2	8.5	2.1
家庭はなごやかで楽しかった	いいえ	219	16	109	61	33
		100.0	7.3	49.8	27.9	15.1

図表17 両親に対する理解度別
友達との付き合いの状況：単数回答(Q12)

自分を理解している(父)	合計	Q12.2 何でも話せる同性の友達がいる		Q12.5 親しい友達を作ることができない	
		はい	いいえ	はい	いいえ
全体	1200	813	387	278	922
	100.0	67.8	32.3	23.2	76.8
そう思う	208	160	48	45	163
	100.0	76.9	23.1	21.6	78.4
まあそう思う	598	415	183	103	495
	100.0	69.4	30.6	17.2	82.8
あまりそう思わない	222	139	83	65	157
	100.0	62.6	37.4	29.3	70.7
そう思わない	94	48	46	38	56
	100.0	51.1	48.9	40.4	59.6

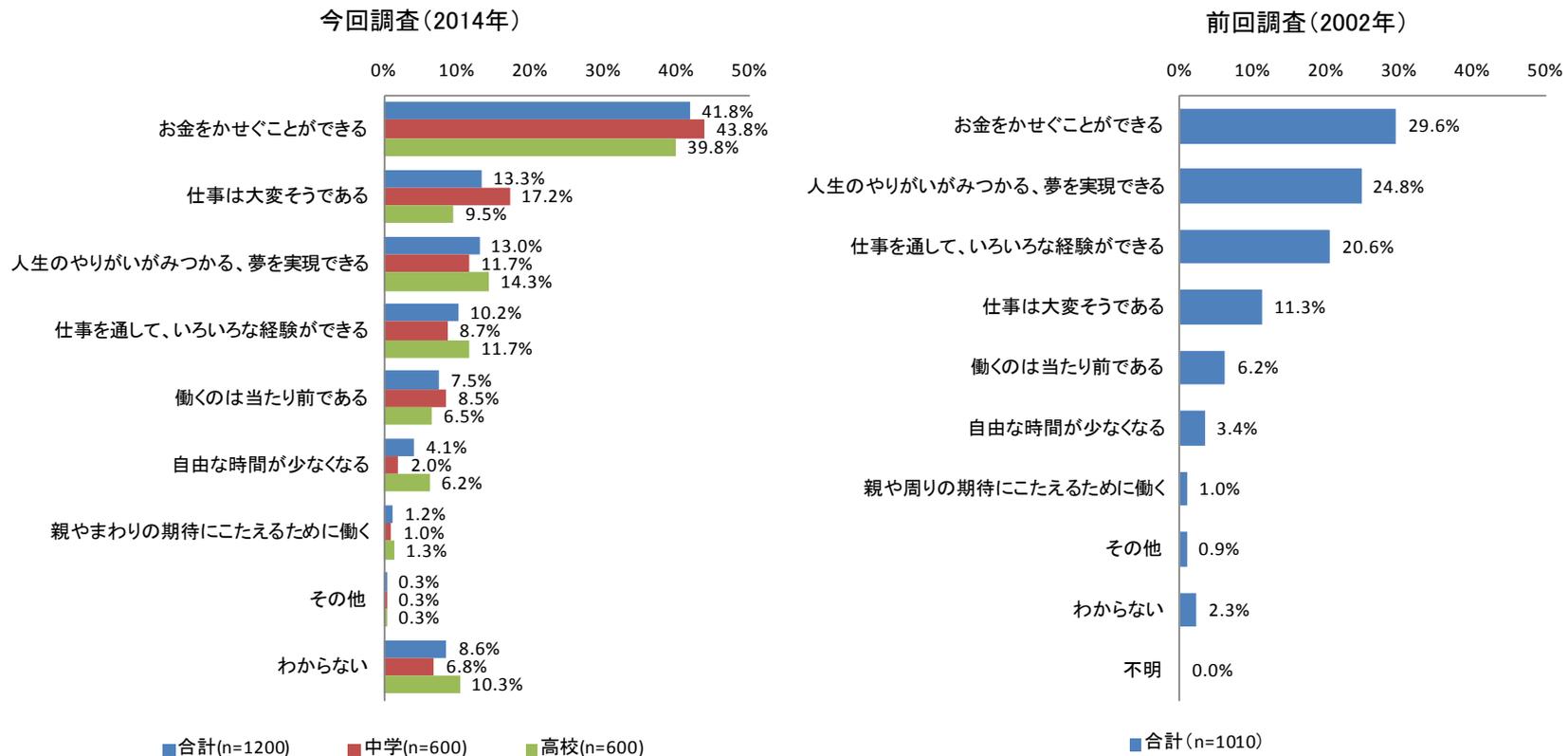
自分を理解している(母)	合計	Q12.2 何でも話せる同性の友達がいる		Q12.5 親しい友達を作ることができない	
		はい	いいえ	はい	いいえ
全体	1200	813	387	278	922
	100.0	67.8	32.3	23.2	76.8
そう思う	312	236	76	66	246
	100.0	75.6	24.4	21.2	78.8
まあそう思う	630	435	195	130	500
	100.0	69.0	31.0	20.6	79.4
あまりそう思わない	183	106	77	49	134
	100.0	57.9	42.1	26.8	73.2
そう思わない	62	28	34	26	36
	100.0	45.2	54.8	41.9	58.1

5.就労、結婚、子育てについての希望・イメージ

(1)就労について

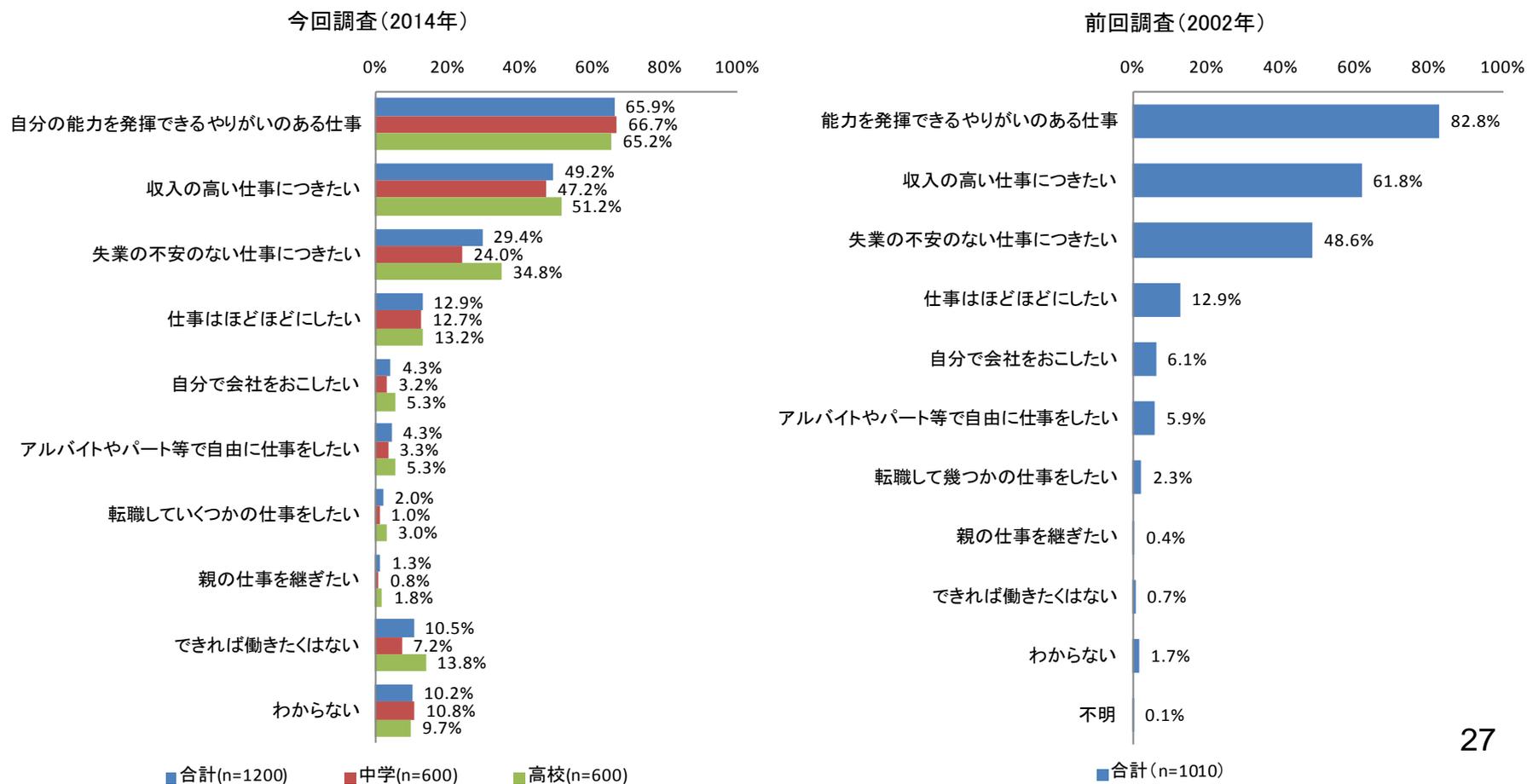
仕事のイメージは、「お金をかせぐことができる」(41.8%)が最も多く、次いで「仕事は大変そうである」(13.3%)、「人生のやりがい、夢の実現」(13.0%)となっている。前回調査と比べると、「お金をかせぐことができる」(前回29.6%)が約10ポイント増加し、「人生のやりがいが見つかる、夢を実現できる」(同24.8%)や、「仕事を通して、いろいろな経験ができる」(同20.6%)はいずれも10ポイント前後低下した。

図表18 仕事のイメージ:単数回答(Q13)



仕事についての希望は、「自分の能力を発揮できるやりがいのある仕事につきたい」(65.9%)が最も多く、次いで「収入の高い仕事につきたい」(49.2%)、「失業の不安のない仕事につきたい」(29.4%)となっている。前回調査と比べると、「能力を発揮できるやりがいのある仕事につきたい」(82.8%)、「収入の高い仕事につきたい」(61.8%)などは10ポイント以上低下し、一方、「できれば働きたくはない」(前回0.7%、今回10.5%)や、「わからない」(前回1.7%、今回10.2%)などが増加した。

図表19 仕事についての希望:複数回答(Q14)

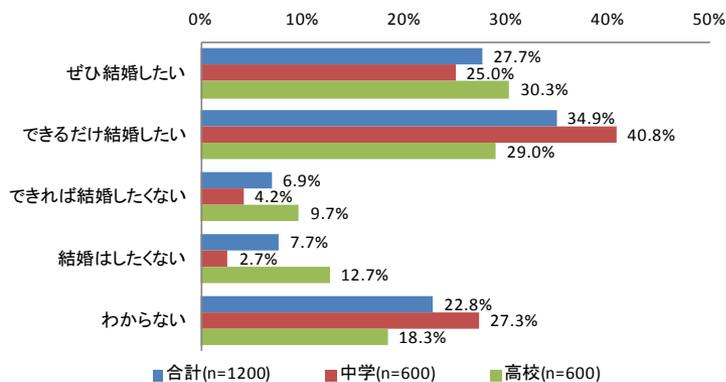


(2)結婚について

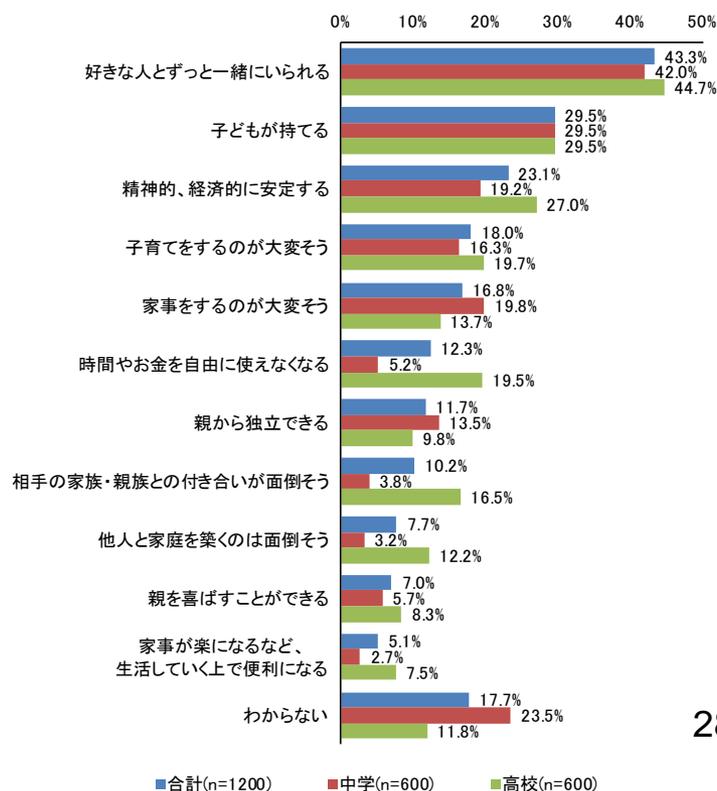
結婚を希望する中高生(「ぜひ結婚したい」+「できるだけ結婚したい」)は全体の約6割である。ただし、高校生は、中学生に比べて、「結婚はしたくない」(12.7%)、「できれば結婚したくない」(9.7%)といった消極的な考えの人が多い。

結婚のイメージについては、「好きな人とずっと一緒にいられる」(43.3%)、「子どもが持てる」(29.5%)などポジティブなイメージが上位であるが、高校生では、より現実的なイメージとして、「時間やお金を自由に使えなくなる」(16.5%)、「他人と家庭を築くのは面倒そう」(12.2%)などが、中学生に比べて多くなっている。一方、中学生は「わからない」がそれぞれ2～3割にのぼり、結婚について、まだ具体的な考えやイメージ持っていないことがうかがえる。

図表20 結婚についての考え:単数回答(Q15)



図表21 結婚のイメージ:複数回答(Q16)



結婚についての考えを、小さな子どもとふれあう機会や、友達とのつきあいの状況別にみると、小さな子どもとふれあう機会がある方が、「ぜひ結婚したい」、「できるだけ結婚したい」という希望が多く、逆に、ふれあう機会がない人は、「結婚はしたくない」、「わからない」が多くなっている。

友達との関係についても、「友達と本気でけんかをすることがある」、「何でも話せる同性の友達がいる」、「親しい異性の友達がいる」、「いつも友達のそばにいたり、連絡をとっていないとさみしい」など、良好な友達関係を築いている人の方が、結婚についても前向きな考えをもっている傾向がみられる。

図表22 小さな子どもとふれあう機会別 結婚についての考え
:単数回答(Q15)

小さい子どもと ふれあう機会	合計	Q15 結婚についての考え方				
		ぜひ 結婚したい	できるだけ 結婚したい	できれば 結婚したく ない	結婚は したくない	わからない
全体	1200 100.0	332 27.7	419 34.9	83 6.9	92 7.7	274 22.8
ふれあう機会が ある	328 100.0	108 32.9	136 41.5	25 7.6	9 2.7	50 15.2
ふれあう機会が ない	872 100.0	224 25.7	283 32.5	58 6.7	83 9.5	224 25.7

図表23 友達とのつきあいの状況別 結婚についての考え
:単数回答(Q15)

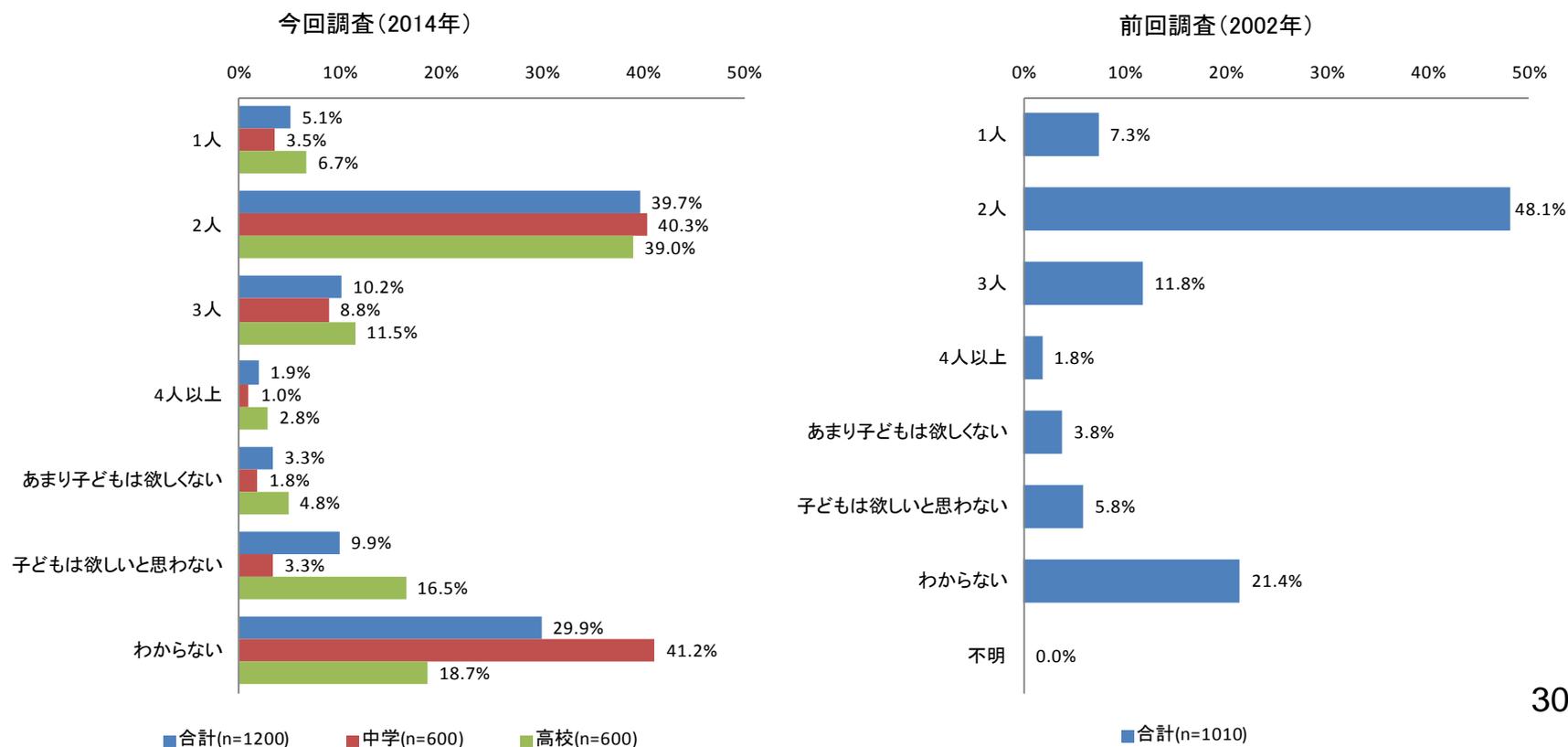
友達とのつきあいの状況	合計	Q15 結婚についての考え方					
		ぜひ 結婚したい	できるだけ 結婚したい	できれば 結婚したく ない	結婚は したくない	わからない	
全体	1200 100.0	332 27.7	419 34.9	83 6.9	92 7.7	274 22.8	
友達と本気で けんかを することがある	はい	281 100.0	101 35.9	100 35.6	24 8.5	15 5.3	41 14.6
	いいえ	919 100.0	231 25.1	319 34.7	59 6.4	77 8.4	233 25.4
何でも話せる 同性の 友達がいる	はい	813 100.0	266 32.7	305 37.5	48 5.9	45 5.5	149 18.3
	いいえ	387 100.0	66 17.1	114 29.5	35 9.0	47 12.1	125 32.3
親しい異性の 友達がいる	はい	362 100.0	140 38.7	120 33.1	22 6.1	17 4.7	63 17.4
	いいえ	838 100.0	192 22.9	299 35.7	61 7.3	75 8.9	211 25.2
いつも友達の そばにいたり、 連絡をとって いないとさみしい	はい	283 100.0	111 39.2	94 33.2	21 7.4	14 4.9	43 15.2
	いいえ	917 100.0	221 24.1	325 35.4	62 6.8	78 8.5	231 25.2
親しい友達を 作ることが できない	はい	278 100.0	63 22.7	71 25.5	40 14.4	39 14.0	65 23.4
	いいえ	922 100.0	269 29.2	348 37.7	43 4.7	53 5.7	209 22.7

(3)子育てについて

欲しい子どもの人数は、「2人」(39.7%)、「3人」(10.2%)の順である。一方、「わからない」(29.9%)も約3割を占めており、中学生で特に多い。高校生は、「子どもは欲しいと思わない」(16.5%)が、中学生に比べて多くなっている。

前回調査と比べると、「わからない」(前回21.4%、今回29.9%)が増えるとともに、「子どもは欲しいと思わない」(前回5.8%、今回9.9%)もやや増えている。

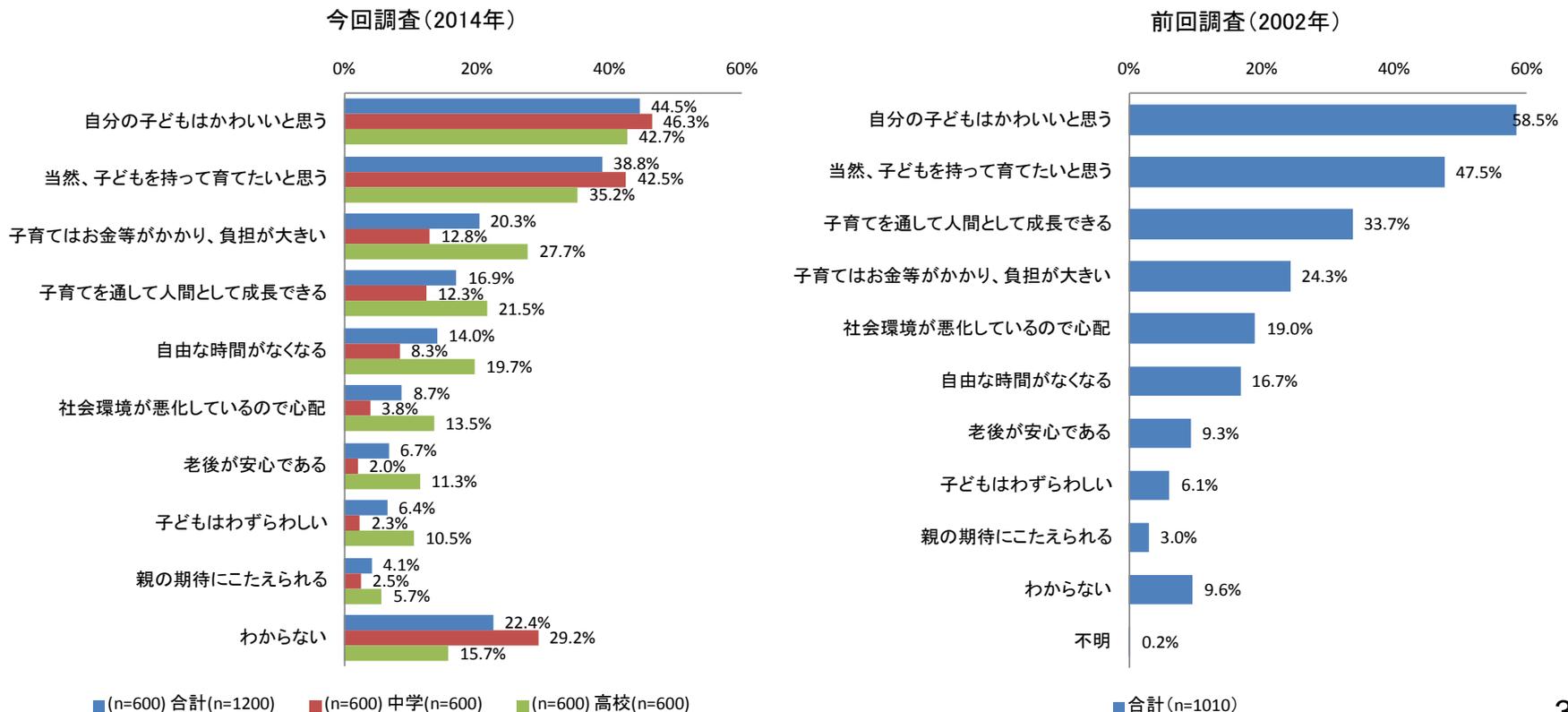
図表24 欲しい子どもの人数:単数回答(Q17)



子どもをもつことに対するイメージをみると、「自分の子どもはかわいいと思う」(44.5%)が最も多く、次いで、「当然、子どもを持って育てたいと思う」(38.8%)となっている。ただし、高校生では、「子育てはお金等がかかり、負担が大きい」(27.7%)、「自由な時間がなくなる」(19.7%)など、ネガティブなイメージが、中学生に比べて多くなっている。

前回調査と比べると、「わからない」(前回9.6%、今回22.4%)が大きく増えており、子どもを持つことを具体的にイメージできない中高生が増えていることがうかがえる。

図表25 子どもをもつことに対するイメージ:複数回答(Q18)



小さな子どもとふれあう機会の有無別に、欲しい子どもの人数をみると、「ふれあう機会がある」人は、「2人」(47.6%)が多い。一方、機会がない人は、「子どもは欲しいと思わない」や、「わからない」が多い傾向がみられる。

同様に、子どもを持つことについても、「ふれあう機会がある」人は、「当然子どもを持って育てたいと思う」(51.5%)、「自分の子どもはかわいいと思う」(53.7%)など、ポジティブなイメージの人が多く。一方、ふれあう機会がない人は、「子育てはお金等がかかり、負担が大きい」や、「わからない」など、ネガティブなイメージもしくは具体的なイメージのない人が多い傾向がみられる。

図表26 小さな子どもとふれあう機会別 欲しい子どもの人数：単数回答(Q17)

小さな子どもと ふれあう機会	合計	Q17 欲しい子どもの人数						
		1人	2人	3人	4人以上	あまり 子どもは 欲しくない	子どもは 欲しいと 思わない	わからない
全体	1200 100.0	61 5.1	476 39.7	122 10.2	23 1.9	40 3.3	119 9.9	359 29.9
ふれあう機会がある	328 100.0	16 4.9	156 47.6	49 14.9	12 3.7	8 2.4	13 4.0	74 22.6
ふれあう機会はない	872 100.0	45 5.2	320 36.7	73 8.4	11 1.3	32 3.7	106 12.2	285 32.7

図表27 小さな子どもとふれあう機会別 子どもを持つことへのイメージ：複数回答(Q18)

小さな子どもと ふれあう機会	合計	Q18 子どもを持つことへのイメージ									
		当然、 子どもを 持って育て たいと思う	自分の 子どもはか わいいと 思う	老後が安 心である	子育てを 通して人間 として成長 できる	親の期待 に答えられ る	自由な 時間が なくなる	子育ては、 お金等が かかり、負 担が大きい	子どもはわ ずらわしい	社会環境 が悪化して いるので心 配	わからない
全体	1200 100.0	466 38.8	534 44.5	80 6.7	203 16.9	49 4.1	168 14.0	243 20.3	77 6.4	104 8.7	269 22.4
ふれあう機会がある	328 100.0	169 51.5	176 53.7	30 9.1	63 19.2	19 5.8	39 11.9	43 13.1	11 3.4	20 6.1	50 15.2
ふれあう機会はない	872 100.0	297 34.1	358 41.1	50 5.7	140 16.1	30 3.4	129 14.8	200 22.9	66 7.6	84 9.6	219 25.1

6.就労観・結婚観・子育て観によるグループ分け(クラスター分析)

(1)クラスター分析の実施

就労観、結婚観、子育て観には密接な関わりがあることから、これらのライフプランに対してクラスター分析を行い、就労観・結婚観・子育て観によるグループ分けを行った。

「問13.仕事のイメージ」、「問15.結婚についての考え方」、「問17.欲しい子どもの人数」のデータを用いてクラスター分析を行い、5つのグループに分類することができた。

クラスター分析の手法、各クラスターの規模、各クラスターの特徴は以下のとおりである。

図表28 クラスター分析の方法

- ・原データの距離計算：原データのユークリッド距離
- ・合併後の距離計算：ウォード法

図表29 クラスターの規模と特徴

	件数	比率	仕事	結婚	子ども	
クラスター1	240	20.0%	◎	○	◎	全て前向き（特に仕事にやりがい）
クラスター2	314	26.2%	△	◎	○	特に結婚に前向き。子育てにも前向き。仕事はお金を稼ぐこと。
クラスター3	275	22.9%	△	×	×	仕事はお金を稼ぐこと。他は後ろ向き
クラスター4	206	17.2%	×	×	×	全て後ろ向き
クラスター5	165	13.8%	×	◎	○	結婚に前向きだが、仕事に後ろ向き

参考：前回調査(2002年)でのグループ分けの状況

	件数	比率	仕事	結婚	子ども	
クラスター1	470	46.6%	○	◎	◎	全て前向き
クラスター2	319	31.6%	△	○	△	ほどほど
クラスター3	76	7.5%	×	△	○	結婚と子どもは前向きだが、仕事だけでも後ろ向き
クラスター4	76	7.5%	×	×	×	全て後ろ向き
クラスター5	68	6.7%	◎ (△)	×	×	仕事だけでも積極的（仕事はお金を稼ぐこと）

※クラスターと「問13.仕事のイメージ」、「問15.結婚についての考え方」、「問17.欲しい子どもの人数」とのクロス集計を行い、各クラスターの特徴をまとめたもの。

(1)各クラスターの特徴

①クラスター1:全て前向き(特に仕事にやりがい)

- 基本属性:**「高校生・女性」、「2人きょうだい」が多い。
- 日頃の活動:**友達との付き合いが中心にあり、悩みを相談できる仲の良い友達がいる人が多いことがうかがえた。自宅以外にも居心地のよい場所がある人も多い。
- 就労・結婚・子育てに関する意識:**仕事に対しては、「人生のやりがいがみつかる、夢を実現している」「仕事を通じて、いろいろな経験ができる」などポジティブなイメージを持ち、自分の能力を発揮できる、やりがいのある仕事に就きたいと思っている人が多くなっていた。
結婚については、結婚したいと思っている人が多く、そのイメージは、「好きな人とずっといられる」「精神的、経済的に安定する」「子どもが持てる」といった前向きなイメージの割合が高くなっていた。
欲しい子どもの数は2人以上の割合が高くなっており、4人以上も約1割を占めていた。子どもを持つイメージは「自分の子どもはかわいいと思う」「子育てを通じて人間として成長できる」など、前向きなものの割合が高く、将来行いたい子育てについても、「子どもの自主性を尊重し、子どもの自由に育てたい」「できるだけ子どもとの時間を多く取りたい」など、前向きに関わっていきたいと考えている人の多いことがうかがえた。
- 両親について:**現在も、小学校就学前も共働きの割合が高くなっていた。父親、母親とも自分の将来のことについて話している割合が高く、自分のことを理解してくれていると感じている割合も高い。さらに、父親、母親ともに、仕事や家事にやりがいを感じている、子育てに熱心であると思っている割合が高くなっていた。両親の仲は良く、家族は和やかで楽しい環境にあり、小学校の時に家族で良く出かけたという割合も高くなっていた。しつけや教育には厳しい面もうかがえ、「習い事や塾を3種類以上していた」「テレビやゲーム、パソコン、スマートフォン等の時間が決められていた」の割合が高くなっていた。
- 生活の満足度について:**生活の満足度は大変高く、父親、母親、学校生活、友達との関係とも、「大変満足している」の割合が高くなっていた。

②クラスター2：特に結婚に前向き。子育てにも前向き。仕事はお金を稼ぐこと

- 基本属性**：基本属性について、特に特徴は見られない。
- 日頃の活動**：友達に、何でも相談したり、本気で友達とけんかすることもあるなど、友達との付き合いが充実している様子が見えたと。同性だけでなく、特に異性との友達との付き合いに関心のある人の割合が高い傾向にあった。
- 就労・結婚・子育てに関する意識**：仕事に対しては、お金をかせぐために収入の高い仕事につきたいと考える、現実的なイメージを持っている割合が高くなっていた。そのため、「失業の不安のない仕事につきたい」と回答した割合も高くなっていた。
結婚願望は強く、「ぜひ結婚したい」と回答した割合が高く、「好きな人とずっと一緒にいられる」「精神的、経済的に安定する」「子どもが持てる」という前向きなイメージを持っている割合が高くなっていた。
希望の子どもの人数は1人、2人で、「当然、子どもを持って育てたいと思う」「自分の子どもはかわいいと思う」「子育てを通じて人間として成長できる」という前向きなイメージを持っている人の割合が高くなっていた。将来行いたい子育ても、「できるだけ子どもとの時間を多く取りたい」と考えている割合が高くなっていた。
- 両親について**：現在も、小学校就学前も共働きの割合が高くなっていた。
父親に対しては、自分に対して過保護であると感じている割合が高くなっていた。
- 生活の満足度について**：学校生活への満足度が高くなっていた。

③クラスター3:仕事はお金を稼ぐこと。他は後ろ向き

●**基本属性:**「高校生・男性」が多い。

●**日頃の活動:**友達との付き合いは「友達と本気でけんかをする事がない」「親しい異性の友達がいらない」「いつも友達のそばにいたり、連絡をとってなくてもさみしくない」の割合が高く、時間をかけたいこととしては、「パソコンやゲーム、スマートフォン等をする事」の割合が高くなっており、友達との関わりは薄く、パソコンやゲームなどに時間を割いている様子が見えられた。

一方で、時間をかけたいこととして、「パソコンやゲーム、スマートフォン等をする事」の割合が高いものの、最も悩んでいることの相談は「直接会う」の割合が高く、悩みなどは直接の関わりの中で相談していきたいと感じている人の多いことが見えられた。

●**就労・結婚・子育てに関する意識:**仕事に対しては、クラスター2と同様に、お金をかせぐために収入の高い仕事につきたいと考える、現実的なイメージを持っている割合が高くなっていった。

結婚に対しては、「結婚はしたくない」が1割強あり、「時間やお金を自由に使えるなくなる」「他人と家庭を築くのは面倒そう」といったネガティブなイメージを持っている割合が高くなっていった。一方で、「わからない」の割合も高く、結婚に対するイメージを持つことができていない人が多いことも見えられた。

子どもについても、「子どもは欲しいと思わない」が2割あり、「子育ては、お金や手間がかかり、負担が大きい」というイメージを持つ人、将来行いたい子育ては「子育て中も、自分のために使う時間を多く取りたい」と考える人の割合が高い一方で、子どもの人数の希望や子どもを持つことにイメージについて「わからない」と回答した割合も高くなっていった。小さな子どもとふれあう機会の有無をみると、「ふれあう機会はなし」が8割を超えて割合が高くなっており、小さな子どもとふれあう機会のないことが子どもを持つことのイメージが持てない要因となっているとも考えられる。

●**両親について:**両親の就業状況について、「ずっと専業主婦(夫)」の割合が高くなっていった。

●**生活の満足度について:**特に特徴は見られない。

④クラスター4: 全て後ろ向き

●**基本属性:** 基本属性について、特に特徴は見られない。

●**日頃の活動:** 学校や地域で特に活動しているものはなく、特に時間をかけたいことはないという人の割合が高くなっていた。

「友達と一緒に遊ぶこと」に時間をかけたいと考える人の割合は低く、友達との付き合いも「友達と本気でけんかをする事がない」「何でも話せる同性の友達がいない」「親しい異性の友達がいない」「いつも友達のそばにいたり、連絡をとっていなくてもさみしくない」の割合が高くなっており、友達との関わりが希薄であることがうかがえた。

「悩んでいることはない」の割合が高く、全般的に活動意欲が低い様子が見られた。

●**就労・結婚・子育てに関する意識:** 仕事に対しては、「働くのは当たり前である」「仕事は大変そうである」「自由な時間が少なくなる」というネガティブなイメージを持っている人の割合が高く、仕事への意欲も低い人の割合が高くなっていた。

結婚についても「結婚はしたくない」の割合が高く、「他人と家庭を築くのは面倒そう」「相手の家族・親族との付き合いが面倒そう」というマイナスのイメージを持っている人の割合が高くなっていた。一方で、クラスター3と同様に、「わからない」の割合が高く、結婚に対するイメージを持つことができていない人が多いこともうかがえた。

子育てについても「子どもは欲しいと思わない」「子育ては、お金や手間がかかり、負担が大きい」というネガティブなイメージや、「子育て中も、自分のために使う時間を多く取りたい」というまだ自分中心に考えている人の割合が高い一方、「わからない」の割合が高く、子どもを持つことに対するイメージも持つことができていない人が多いことがうかがえた。小さな子どもとふれあう機会の有無をみると、「ふれあう機会はない」が8割を超えて割合が高くなっていた。

④クラスター4:全て後ろ向き:つづき

●**両親について:**両親の就業状況は「ずっと専業主婦(夫)」の割合が高くなっていた。

父親、母親とも、ほとんど会話をしていない状況がうかがえ、父親、母親に対する意識も、自分のことを理解してくれていると思っていない人の割合が高くなっていた。また、父親については、「仕事や家事にやりがいを感じている」と思っていない人の割合が高く、5%ほどだが他と比較して父親が働いていない割合も高くなっていた。また、母親については、「子育てに熱心である」と思っている人の割合が高くなっていた。両親の仲は良い状態になく、小学校の育てられ方として「家庭は和やかで楽しかった」で「いいえ」と回答した割合が高くなっており、家庭の雰囲気も悪い状況がうかがえた。

●**生活の満足度について:**母親、学校生活、友達の関係に対して、不満である割合が高くなっていた。

⑤クラスター5:結婚に前向きだが、仕事に後ろ向き

●**基本属性:**基本属性について、特に特徴は見られない。

●**日頃の活動:**将来について悩んでいる人の割合が高くなっていた。

●**就労・結婚・子育てに関する意識:**仕事に対しては、できれば働きたくない人の割合が高く、「仕事は大変そうである」「自由な時間が少なくなる」など、ネガティブなイメージを持っている人の割合が高くなっていた。一方、結婚については、「ぜひ結婚したい」人の割合が高く、「好きな人とずっと一緒にいられる」「子どもが持てる」「親から独立できる」といったポジティブなイメージを持っている人の割合が高くなっていた。子育てについても、子どもの人数の希望は1~3人の割合が高く、「当然、子どもを持って育てたいと思う」「自分の子どもはかわいいと思う」というポジティブなイメージを持っている人の割合が高く、町内会や子ども会、学校の授業や行事で小さな子どもとふれあっている人の割合も高くなっていた。

●**両親について:**父親について、自分のことを理解してくれていると感じている人の割合が高くなっていた。

●**生活の満足度について:**生活の満足度について、特に特徴は見られない。

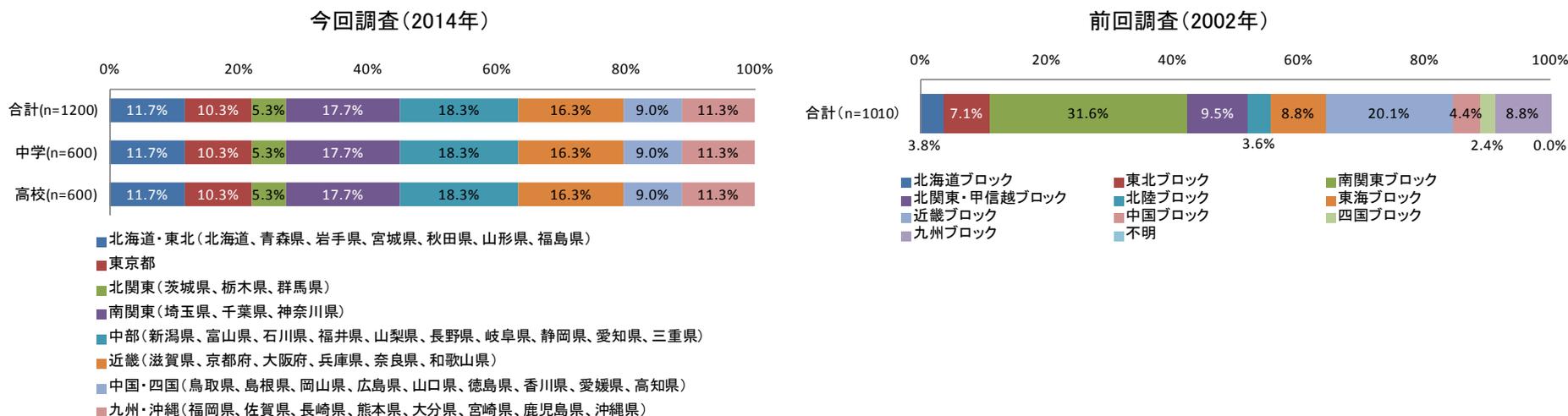
7.基本属性

(1)居住地

居住地は、「中部(新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)」「(18.3%)が最も多く、次いで「南関東(埼玉県、千葉県、神奈川県)」「(17.7%)である。

前回調査では、今回調査と地域ブロックの設定範囲が異なるが、「南関東」(31.6%)が最も多く、次いで「近畿」(20.1%)であった。

図表30 居住地:単数回答(Q1)

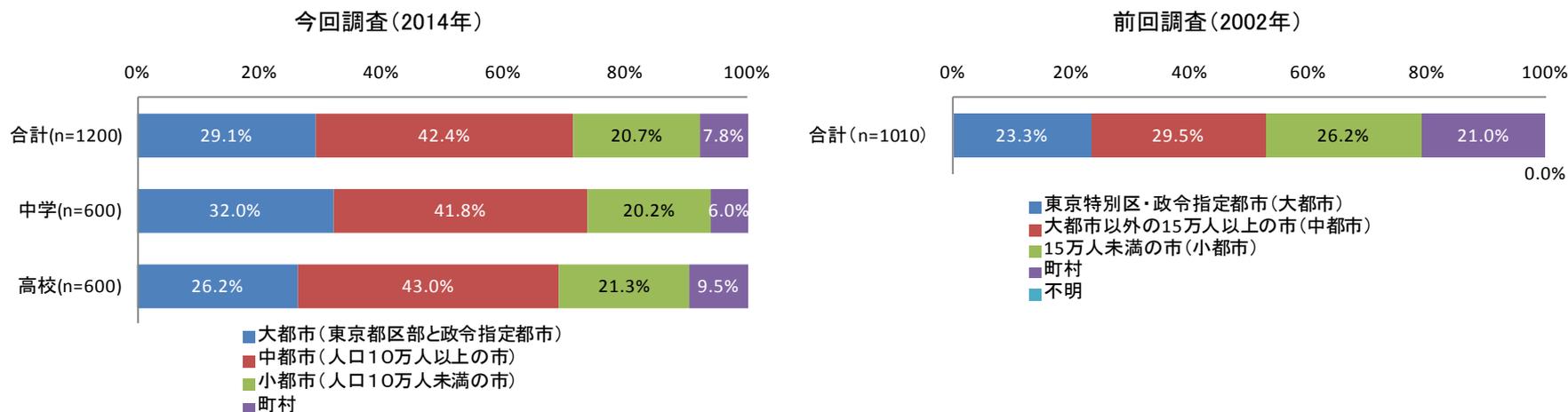


(2) 居住市区町村の規模

中高校生ともに、「中都市(人口10万人以上の市)」が最も多く、それぞれ41.8%、43.0%である。次いで「大都市(東京都区部と政令指定都市)」がそれぞれ32.0%、26.2%である。

前回調査では、今回調査と規模の設定が異なるが、「大都市以外の15万人以上の市(中都市)」(29.5%)及び「15万人未満の市(小都市)」(26.2%)がそれぞれ3割弱であった。

図表31 居住市区町村の規模:単数回答(Q2)

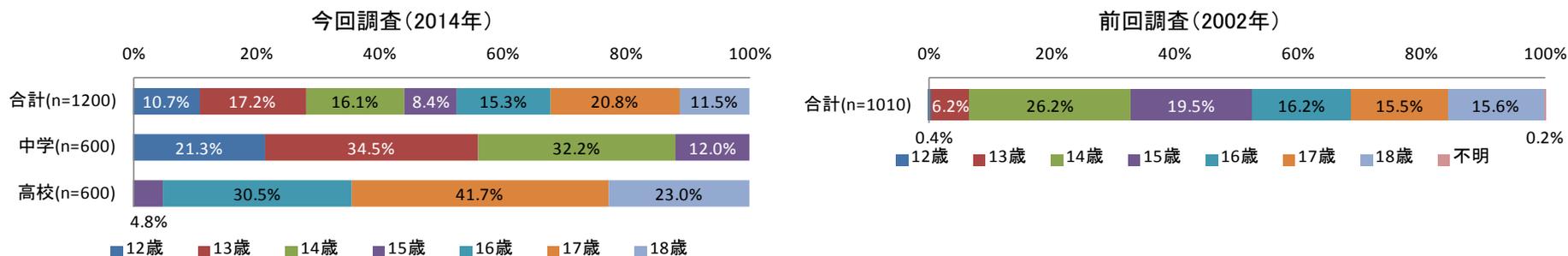


(3)年齢

前回調査、今回調査とも、「12歳～15歳」と、「16歳～18歳」がほぼ半々を占めている。

年齢別にみると、「17歳」(20.8%)が最も多く、次いで「13歳」が17.2%、「14歳」が16.1%である。

図表32 年齢:単数回答(Q3)

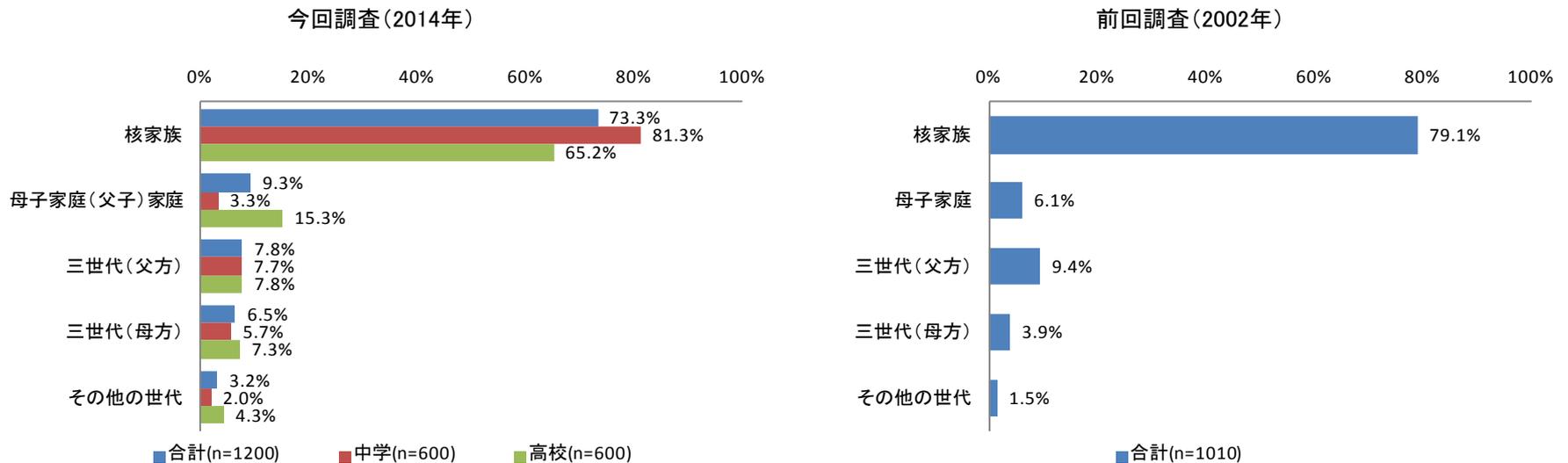


(4) 家族形態

家族形態は、「核家族」(73.3%)が最も多く、次いで「母子(父子)家庭」(9.3%)、「三世代(父方)」(7.8%)である。

前回調査では、「核家族」(79.1%)が最も多く、次いで「三世代(父方)+(母方)」(13.3%)であった。三世代については、父方の祖父母と同居している「三世代(父方)」が多くなっていた。「母子家庭」は6.1%であった。

図表33 家族形態:単数回答(Q4)



※同居している家族(Q4・複数回答)の回答をもとに作成。

子育て支援策等に関する調査2014 報告書
(中高生アンケート調査) 概要

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2オランダヒルズ森タワー
女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室
経済・社会政策部
矢島、鈴木、川澤、尾島